

第6章 先史時代の遼東半島と膠東半島における土器製作技術

三阪一徳（九州大学埋蔵文化財調査室）

はじめに

近年、従来の考古資料の形態や文様に基づく時間的・空間的な分析に加え、栽培植物に関する土器圧痕分析やDNA分析、土壌分析による耕作地の推定をはじめとした自然科学的分析を通じ、東北アジアにおける初期農耕の伝播過程について議論が深化している。宮本一夫（2007・2009・2017aほか）はこれらの研究成果をふまえ、東北アジアにおける初期農耕の拡散が4段階に区分できるとし、「東北アジア初期農耕化4段階説」を提唱した。宮本の最新の成果（宮本2017a）をもとに各段階を整理すると次のようになる。

第1段階は、紀元前6千年紀に黄河中・下流域で出現したアワ・キビ栽培が時間の経過とともに、華北、遼西の興隆窪文化、遼東の新楽下層文化、沿海州南部、朝鮮半島の新石器時代中期（紀元前3300年頃）へ拡散する。第2段階は、長江中・下流域で出現した栽培イネが北に拡散し、黄河中・下流域では紀元前5千年紀の仰韶文化期、山東半島では龍山文化期にこれが受容される。山東半島東端の膠東半島では遅くとも紀元前2500年頃には栽培イネの拡散が確認される。そして、紀元前2500～2000年頃に龍山文化期の文化要素とともに栽培イネが山東半島から遼東半島に流入する。第3段階は、水田をはじめとする灌漑農耕とこれに伴う磨製石器群が、龍山文化期の山東半島から遼東半島を経て、紀元前1500年頃に朝鮮半島の新石器時代と青銅器時代（無文土器時代）の移行期に到達する。第4段階は、日本列島の縄文時代から弥生時代への移行期に、水田をはじめとする灌漑農耕が受容される。

東北アジアの初期農耕拡散の実態は解明されつつあるものの、当該期における人の移動や文化変化の実態については不明瞭な部分も残されている。そこで、本稿では土器製作技術の検討を通じ、上記課題の解決を目指す。これは、製作技術は完成品を見ただけでは模倣することが難しく、過去の人類社会において生じた移住の実態をより明確に裏づける要素となりうるからである。

本稿では、まず、遼東半島と膠東半島（山東半島）の土器製作技術に関する分析を行う。次に、以前提示した遼東半島の分析結果（三阪2015）を加味し、遼東半島と膠東半島における土器製作技術の時間的変化を明らかにし、変化の背景について検討する。さらに朝鮮半島南部の分析結果（三阪2012・2014・2015）を参照し、膠東半島、遼東半島、朝鮮半島の間における土器製作技術の変化と、その背景となる人の移動や文化変化の実態について検討する。

1. 資料と方法

(1) 資料

対象とした資料は、遼東半島と膠東半島（山東半島）の紀元前4000～1000年紀の土器である。土器の時期区分と地域間の時間的關係については宮本（2017b、表11）に従うものとする。分析対象資料とその時間的位置づけは表12の通りである。具体的には、遼東半島に位置する文家屯遺跡の呉家村期・偏堡類型、王家村遺跡の呉家村期・偏堡類型、羊頭窪遺跡の双砬子3期前半の土器、膠東半島〔山東半島〕に位置する午台子遺跡の楊家圈2期〔龍山文化前期〕、照格莊遺跡の照格莊期〔岳石文化期〕、棲子庄遺跡の珍珠門期～西周〔岳石文化期～西周〕の土器を分析対象とした。

表11 東北アジアの土器編年と併行関係（宮本2017b より引用・改変）

年代	中原	山東	膠東半島	遼東半島	遼河下流域	鴨綠江下流域	朝鮮半島西部	朝鮮半島中・南部（無文土器時代区分）	北部九州	東北アジア 初期農耕化
BC5000	裴李崗 仰韶半坡類型	後李 北辛	白石村	小珠山下層	新樂下層	後窪下層		新石器早期	繩文早期	1段階
BC4000	仰韶史家類型 仰韶廟底溝類型	大汶口前期 大汶口前期	邱家莊 北莊1期	小珠山下層 小珠山中層	馬城子	後窪上層	智塔里 金灘里1期		繩文前期	
BC3000	仰韶半坡2期 廟底溝2期	大汶口中後期 大汶口後期	楊家園1期	北莊2期 吳家村	偏堡	閣吃子 雙鶴里1期	南京1期 南京2期	新石器前期 新石器中期 新石器後期 新石器晚期	繩文中期	2段階
BC2000	王灣3期 新砦	龍山前期 龍山後期	楊家園2期 楊家園3期	小珠山上層 雙詭子1期	偏堡 窪工街1期	雙鶴里2期 新砦里1期			繩文後期	
BC1500	二里頭文化 二里頭文化	岳石 岳石	照格莊 芝水	雙詭子2期 雙花子3期	高台山 高台山	新砦里第3地点第1文化層 新砦里2期	コマ形土器1期	突帶文土器（早期） （前期前半） 橫帶斜格子文土器（欣岩里） （前期中葉） 孔列文土器（馱三洞） （前期後葉）		3段階
BC1000	殷墟期 西周	西周 大辛莊	珍珠門	雙花子3期 上馬石A地点下層	新樂上層 高台山	新砦里3期 美松里上層		（後期） 先松菊里（休岩里） 松菊里	繩文晚期	
BC450	春秋 戦国	春秋 戦国	西周 春秋	上馬石A地点上層 上馬石BE地点	鄭家窪子 鄭家窪子	墨房里	コマ形土器2期 コマ形土器3期 コマ形土器4・5期	（後期） 先松菊里（休岩里） 松菊里	弥生早期 弥生前期	4段階

(2) 分析方法

対象資料の土器製作技術について分析を行った。分析項目は、①粘土帯の積み上げ方法（粘土帯幅、接合面長、接合面の傾き）、②木製板工具調整、③回転ナデ調整、④タタキ、⑤底部糸切り痕、⑥底部布圧痕、⑦焼成方法、⑧赤彩である。①～③については一定のサンプル数を確保できたため数量的な分析を実施したが、その他の項目についてはサンプル数が少量であったため数量的な分析は行っていない。下に各分析項目の詳細をあげる。

①粘土帯の積み上げ方法

分類基準については基本的に拙稿（三阪2014・2015）に従い、粘土帯幅、接合面長、接合面の傾きを分析項目とするが、本分析でえられた新たな所見を加え再度整理しておく。

粘土帯幅 膠東半島・遼東半島・朝鮮半島において大きく3つのタイプが存在する。それは、粘土帯幅の中央値が5-15mmの幅狭、40-60mmの幅広、その中間の値を示すものである。計測値に基づき、地域・時期ごとの特徴を示した。

接合面長 接合面長も粘土帯幅と同様、同地域において大きく3つのタイプが存在する。それは、接合面長の中央値が5-10mmの短、20-30mmの長、その中間の値を示すものである。計測値に基づき、地域・時期ごとの特徴を示した。

接合面の傾き 粘土帯間の接合面の傾きによって分類した。器壁の外側が高く内側が低い「内傾」、逆に器壁の外側が低く内側が高い「外傾」に加え、器壁の外側と内側が同程度の高さで中央部がやや高く膨らむ「水平」の3つに区分される。これらの頻度を地域・時期ごとに示した。

粘土帯の積み上げ方法 粘土帯幅、接合面長、接合面の傾きという3要素の組み合わせで示し、粘土帯幅-幅狭/幅広/中間、接合面長-短/長/中間、接合面の傾き-内傾/外傾/水平と表現した。

なお、西日本の縄文時代晩期の土器に多くみられる「内傾接合」（家根1984ほか）は粘土帯幅-幅狭、接合面長-短、接合面の傾き-内傾となり、縄文時代晩期末（弥生時代早期）から弥生時代前期および朝鮮半島南部の青銅器時代の土器にみられる「外傾接合」（家根1984ほか）は粘土帯幅-幅広、接合面長-長、接合面の傾き-外傾と表現される。

②木製板工具調整

木製板工具調整の分類基準については、先行研究（横山1987ほか）をふまえて提示した拙稿の案（三阪2014・2015）に従い、地域・時期ごとの頻度を示した。

③回転ナデ調整

工具不明ナデ調整のうち、土器の器壁を水平（横）方向にほとんど上下せず、全周するもしくはその可能性があるものを回転ナデ調整とした。横方向の工具不明ナデ調整が全周せずに、中断・静止した痕跡がみられるものや、上下のブレが著しいものは除外した。回転ナデ調整としたものの具体的な

表12 対象資料

地域	遺跡	資料数	時期*	資料保管機関	調査年月日	文献
遼東半島	文家屯	102	呉家村期・偏堡類型	京都市・京都大学人文科学研究所	2015年7月30-31日, 10月15-16日	岡村編2002
遼東半島	王家村	63	呉家村期・偏堡類型	中国山東省済南市・山東大学	2015年9月20-25日	
遼東半島	羊頭窪	112	双砵子3期前半	京都市・京都大学総合博物館	2016年7月7-8日, 10月20-21日, 2017年7月13-14日	東亜考古学会編 1943
膠東半島	午台子	39	楊家園2期〔龍山前期〕**	中国山東省煙台市・烟台市博物館	2017年10月9-15日	
膠東半島	照格荘	57	照格荘期〔岳石期〕**	中国山東省煙台市・牟平区博物館	2016年11月4-7日	
膠東半島	樓子庄	32	珍珠門期~西周〔大辛荘期~西周〕**	中国山東省煙台市・烟台市博物館	2017年10月9-15日	

*宮本2017bに基づく.**〔〕は山東半島の土器編年.

生成要因、つまりロクロや回転台の使用に起因するかについては、土器におけるその他の痕跡や出土木製品などの製作道具をふまえて検討する必要がある。この点は今後の課題とし、ここでは回転ナデ調整の地域・時期ごとの頻度を示した。

④タタキ

対象資料に縄蓆文と平行条線を有するタタキが確認されたため、地域・時期ごとにその有無を示した。

⑤底部糸切り痕

対象資料の底部に糸切り痕が確認されたため、地域・時期ごとにその有無を示した。

⑥底部布圧痕

対象資料の底部に布圧痕とみられるものが確認されたため、地域・時期ごとにその有無を示した。

⑦焼成方法

野焼きについては、小林正史ら（小林ほか2000など）の研究に従い、黒斑の形態と土器における黒斑の分布パターンに基づいて開放型野焼きと覆い型野焼きに区分する方法を採用し、どちらの可能性が高いのかを検討した。分類・認定基準については拙稿（三阪2014・2015）に従う。残存度の高いサンプルが少量であったため、数量的な分析は行っていない。

また、対象資料には窯で焼成された土器が含まれていると推定される。徳留大輔（2016）は近年までの発掘調査事例を集成し、中国の新石器時代から西周時代における窯の変遷と地域性を明らかにしている¹。ただし、現在のところ、本稿で対象とした時期の遼東半島や膠東半島では、窯の検出事例はごくわずかであり実態は不明瞭である。ここでは徳留の研究成果を参照し、周辺地域の同時期における窯の存否や種類、分布状況から、窯焼成の土器が存在していたかについて補足的に検討した。

⑧赤彩

朝鮮半島南部の青銅器時代の土器や日本列島の弥生土器には、赤色磨研、丹塗磨研、スリップ赤彩（小林・鐘ヶ江2006）とよばれる赤彩技術が存在する。これらには赤色顔料を塗布した痕跡や、未塗布部との境界に顔料が垂れた痕跡がみられる点が特徴である。遼東半島の呉家村期・偏堡類型には、器壁が赤色を呈する土器がみられた。これらは、ミガキ調整が施された部分は赤く発色しているのに対し、これが施されないナデ調整などの部分は赤色を呈さず、胎土あるいは器壁断面と同様の色調であった。また、赤色顔料を塗布した明確な痕跡が確認できた個体は現状で存在しない。胎土自体に赤色顔料を混ぜ込んでいる可能性などが想定されるが、この赤彩技術の実態は不明である。ここでは仮にこれを赤彩Bとよび、スリップ赤彩を赤彩Aとよぶこととする。

2. 分析結果

遼東半島の文家屯遺跡、王家村遺跡、羊頭窪遺跡、膠東半島の午台子遺跡、照格荘遺跡、樓子庄遺

跡における土器製作技術に関する分析結果を下に示した。基礎データは表14、分析結果は図72～76に示し、諸属性の代表例の写真を図77～83にあげた。表13には分析結果を整理し、地域ごとに土器製作技術の時間的変化をまとめている。なお、次章の考察に用いるため、図72～76、表13・表14には遼東半島の上馬石貝塚、朝鮮半島南部の新石器時代から青銅器時代の土器製作技術に関するデータ（三阪2012・2014・2015）を提示した²。

(1) 遼東半島

① 文家屯遺跡

文家屯遺跡出土土器（岡村編2002）の時間的な位置づけについてはすでに検討がなされている（宮本1995、岡村・松野2002、古澤2007）。これらによると、A区出土土器は呉家村期を中心としつつも（宮本1995）、小珠山上層期を含むことが指摘されている（古澤2007）。C区出土土器は偏壘類型（三堂村1期）が中心となる（宮本1995、古澤2007）。本稿でもこれに従い、基本的にA区出土土器を呉家村期、C区出土土器を偏壘類型とした。なお、偏壘類型の特徴は胎土に雲母（岡村・松野2002）もしくは滑石（古澤2007）を多量に含む点や、隆帯をもつ点などがあげられる。A区出土土器の一部やB区出土土器にも偏壘類型の特徴をもつ土器が含まれていたため、これらは偏壘類型に位置づけて分析した。また、小珠山上層期や時期不明の資料など、呉家村期・偏壘類型以外に位置づけられるものは分析対象から除いた。

呉家村期 粘土帯の積み上げ方法は粘土帯幅-不明、接合面長-短、接合面の傾き-外傾である（図77-1・2）。木製板工具調整は観察した個体の1割以上にみられる（図77-3）。また、高い頻度で赤彩Bが認められる（図77-4・5）。

偏壘類型 粘土帯の積み上げ方法は粘土帯幅-不明、接合面長-不明、接合面の傾き-不明である。木製板工具調整は観察した個体の約2割に認められ、木製板工具による刻目もみられる（図77-6・7）。赤彩Bが認められる。

② 王家村遺跡

粘土帯の積み上げ方法は粘土帯幅-幅広？、接合面長-中間、接合面の傾き-外傾である（図78-1・2・3）。木製板工具調整は観察した個体の約4割と高い頻度でみられる（図78-4）。焼成方法は黒斑の規則的なパターンがなく開放型野焼きの可能性のある個体が確認された（図78-5、図79-1）。一方で覆い型野焼きに近い黒斑パターンを有する個体もあり（図79-2・3）、焼成法についてはさらなる検討を要する。高い頻度で赤彩Bが認められる（図79-4）。

③ 羊頭窪遺跡

粘土帯の積み上げ方法は粘土帯幅-幅狭～中間？、接合面長-短、接合面の傾き-外傾（+内傾）である（図80-1・2）。明確な木製板工具調整はみられず、その可能性のあるものも観察した資料の1割未満にとどまる（図80-2）。明確な回転ナデ調整は認められないが、その可能性のある個体が含まれる（図80-4・5）。焼成方法について、野焼きの有無は不明である。これは当該期の土器は基本的に黒色化されていることから、明確な黒斑は認識できず、加えて残存度が高い個体が少ないことによる。断面の色調は、均一に還元され全体が灰色を呈するものはほとんどみられず、灰色と赤褐色の中間的なものが中心である。当該期には周辺地域で昇焰式窯を中心とする窯が使用されており（徳留2016）、本資料にも窯で焼成された土器が含まれる可能性がある。赤彩が確実に施されたといえる土器は確認できないが、赤彩Aの可能性のある個体が認められる（図80-6）。

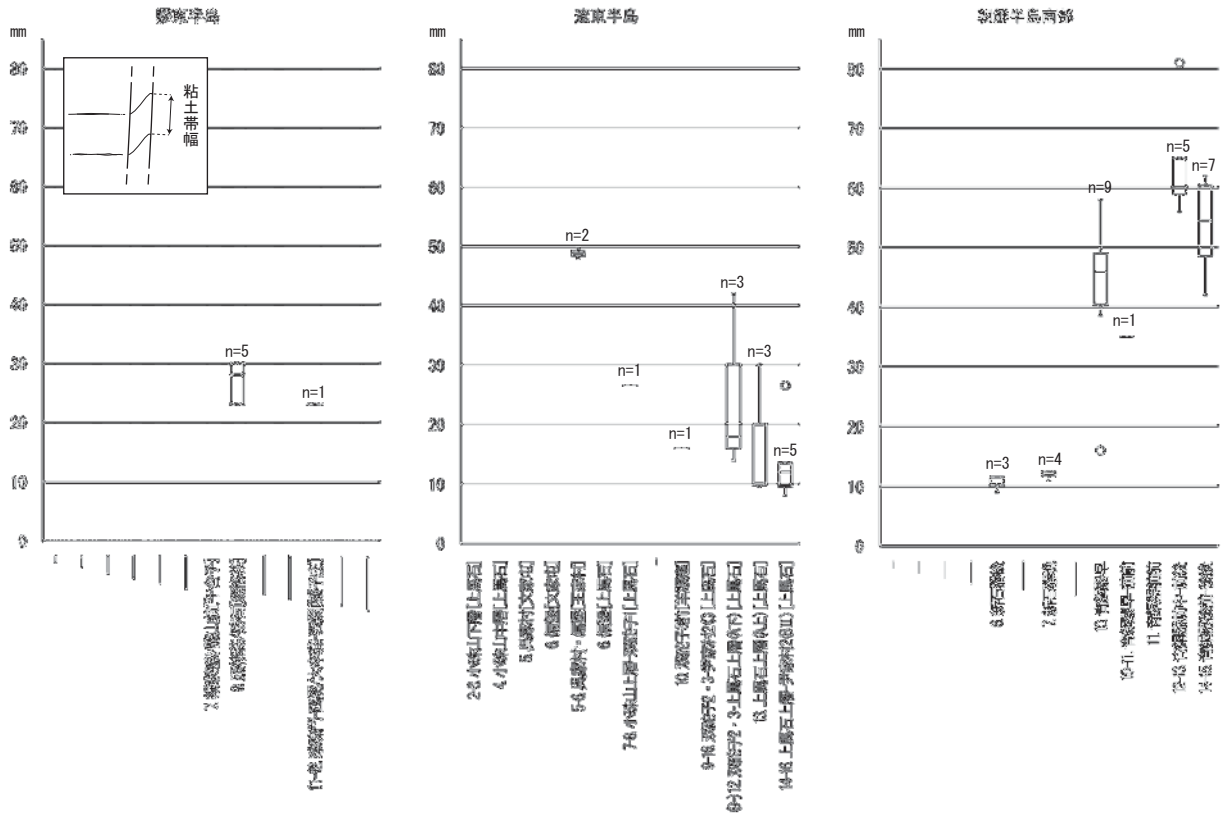


図72 粘土帯の積み上げ方法・粘土帯幅

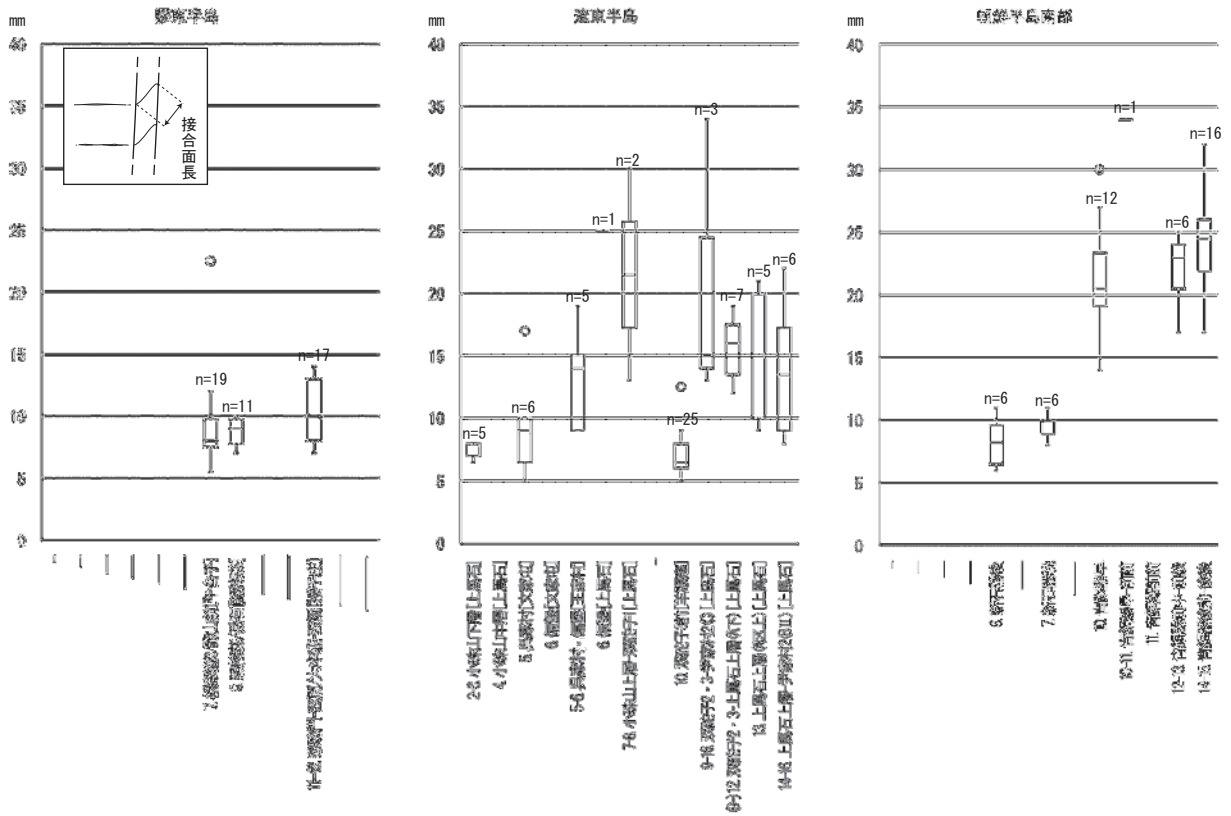


図73 粘土帯の積み上げ方法・接合面長

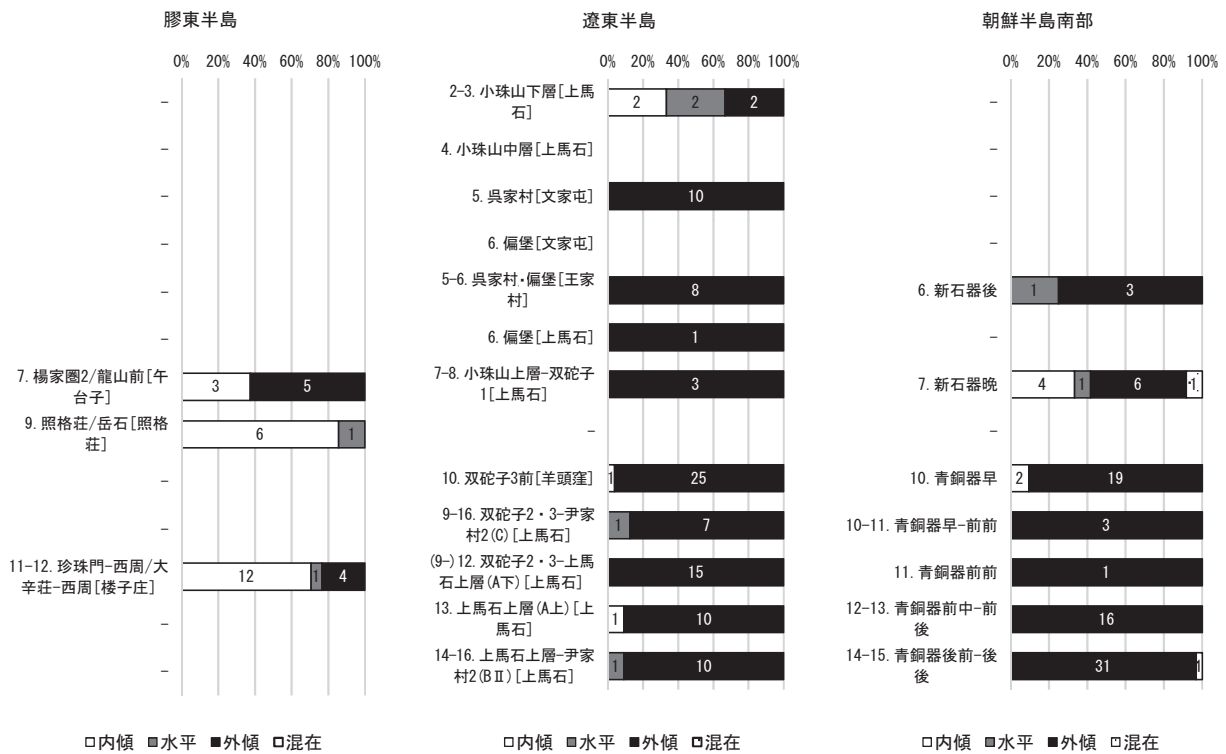


図74 粘土帯の積み上げ方法・接合面の傾き

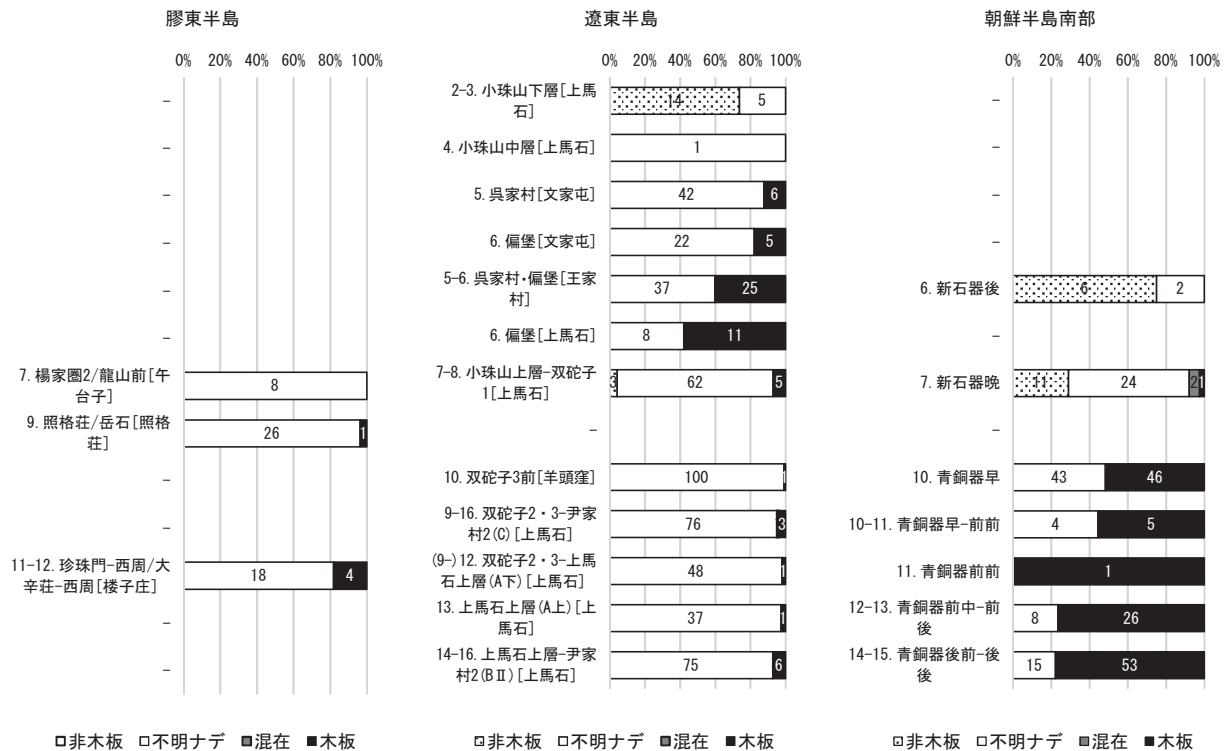


図75 木製板工具調整

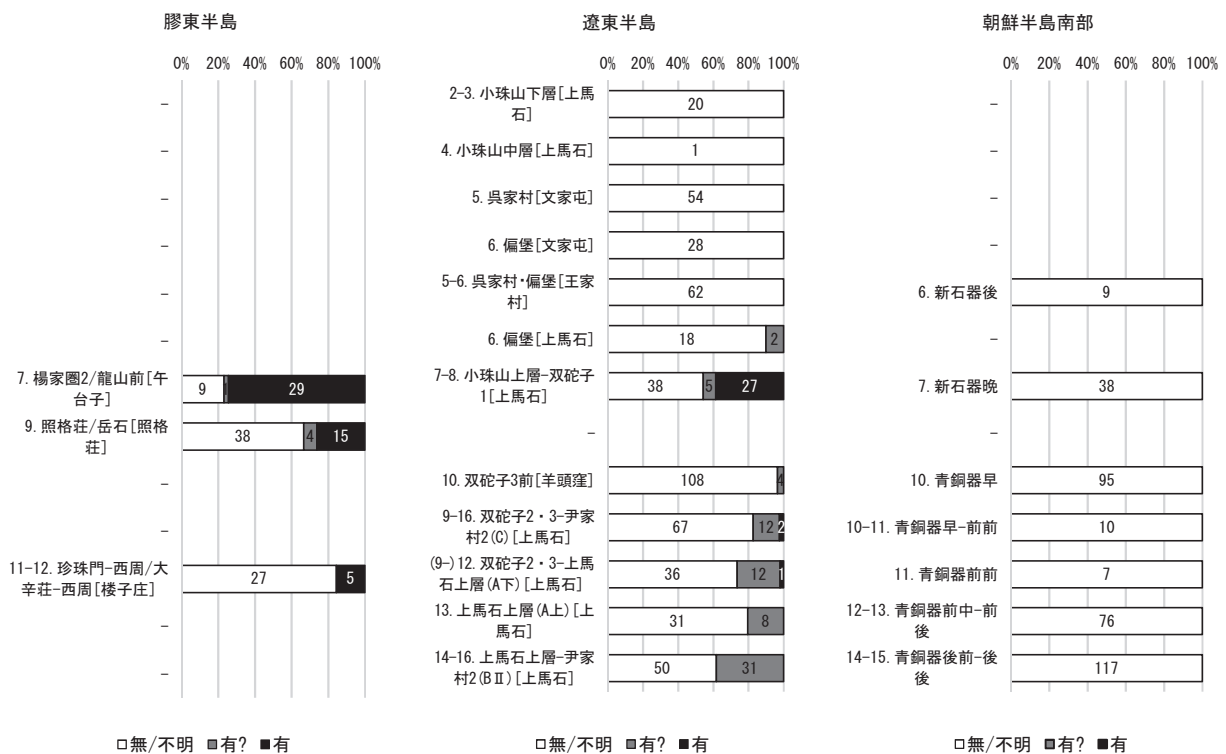


図76 回転ナデ調整

(2) 膠東半島

①午台子遺跡

粘土帯の積み上げ方法は粘土帯幅 - 不明、接合面長 - 短、接合面の傾き - 内傾 + 外傾である (図81-1・2)。明確な木製板工具調整はみられない。回転ナデ調整は観察した資料のうち約8割と高頻度で確認される (図81-1・3)。底部には布圧痕 (図81-4) と糸切り痕 (図81-4) を有する個体が認められた。回転ナデ調整と底部糸切り痕の存在はロクロの使用を暗示する。次に焼成方法について検討する。対象資料には、黒色化されたいわゆる黒陶が中心であり、断面の色調は灰色を呈する。一方で赤褐色を呈する土器も少量ながら存在する (図81-5)。周辺地域の龍山文化期には昇焰式窯Ⅱb式が主流となり、還元焰焼成された灰陶や黒陶との関係が指摘されている (徳留2016)。よって、灰色の土器は窯で焼成された可能性がある。一方で赤褐色の土器は野焼きの可能性もあり、これらの一部には赤彩Aが確認される (図81-5)。

②照格莊遺跡

粘土帯の積み上げ方法は粘土帯幅 - 中間、接合面長 - 短、接合面の傾き - 内傾 (+ 水平) である (図82-1・2)。木製板工具調整は1点のみに確認され、全体の約1割未満である (図82-3)。回転ナデ調整は観察した個体のうち約3割に認められる (図82-4・5)。底部糸切り痕の可能性のある個体がみられる (図82-6)。焼成方法についてみる。色調は、灰色 (図82-4・5・6)、赤褐色 (図82-1・3)、その中間的な色調を示すもの (図82-2) が存在する。本資料は二里頭文化併行期に相当し、周辺地域では昇焰式窯Ⅲ式を中心とする窯の使用が確認されている (徳留2016)。本資料のうち、灰色を呈するものは還元焰焼成と考えられ、窯で焼成された可能性が高い。なお、赤褐色の土器については、窯で酸化気味に焼成された可能性と、野焼きの可能性の両者が想定される。

表13 土器製作技術的變化的時間的變化

朝鮮半島南部

	遼東半島				遼東半島				朝鮮半島南部					
	粘土帶の積み上げ	木製板工具調整 ¹	回転ナア調整 ⁴	タタキ ⁵	底部糸切痕	焼成 ⁶	赤彩	粘土帶の積み上げ	木製板工具調整 ¹	回転ナア調整 ⁴	タタキ ⁵	底部糸切痕	焼成 ⁶	赤彩
	粘土帶幅 ²	接合面長 ³	接合面傾き ³					粘土帶幅 ²	接合面長 ³	接合面傾き ³				
1-/後季														
2.白石村/北辛										内+水+外			野(開?)	
3.邱家莊/大汶口前														
4.北莊1/大汶口前														
5.北莊2/大汶口中														
6.楊家園1/大汶口後														
7.楊家園2/龍山前[牛舌子]														
8.楊家園3/龍山後														
9.照格莊/岳石[照格莊]														
10.芝水/岳石														
11-12.珍珠門-西岡/大辛莊-西岡[梭子莊]														
12.西岡														
14.春秋														

1 狭 = 幅狭, 広 = 幅広, 中 = 中間, 2 中 = 中間, 2 中 = 中間, 3 内 = 内傾, 外 = 外傾, 水 = 水平, 4 ○ 觀察個体の1期以上, ○ 觀察個体の1期未満, 5 平 = 平行糸線タタキ, 細 = 細密タタキ, 6 野 = 野焼, 開 = 開放型野焼, 覆 = 覆い型野焼

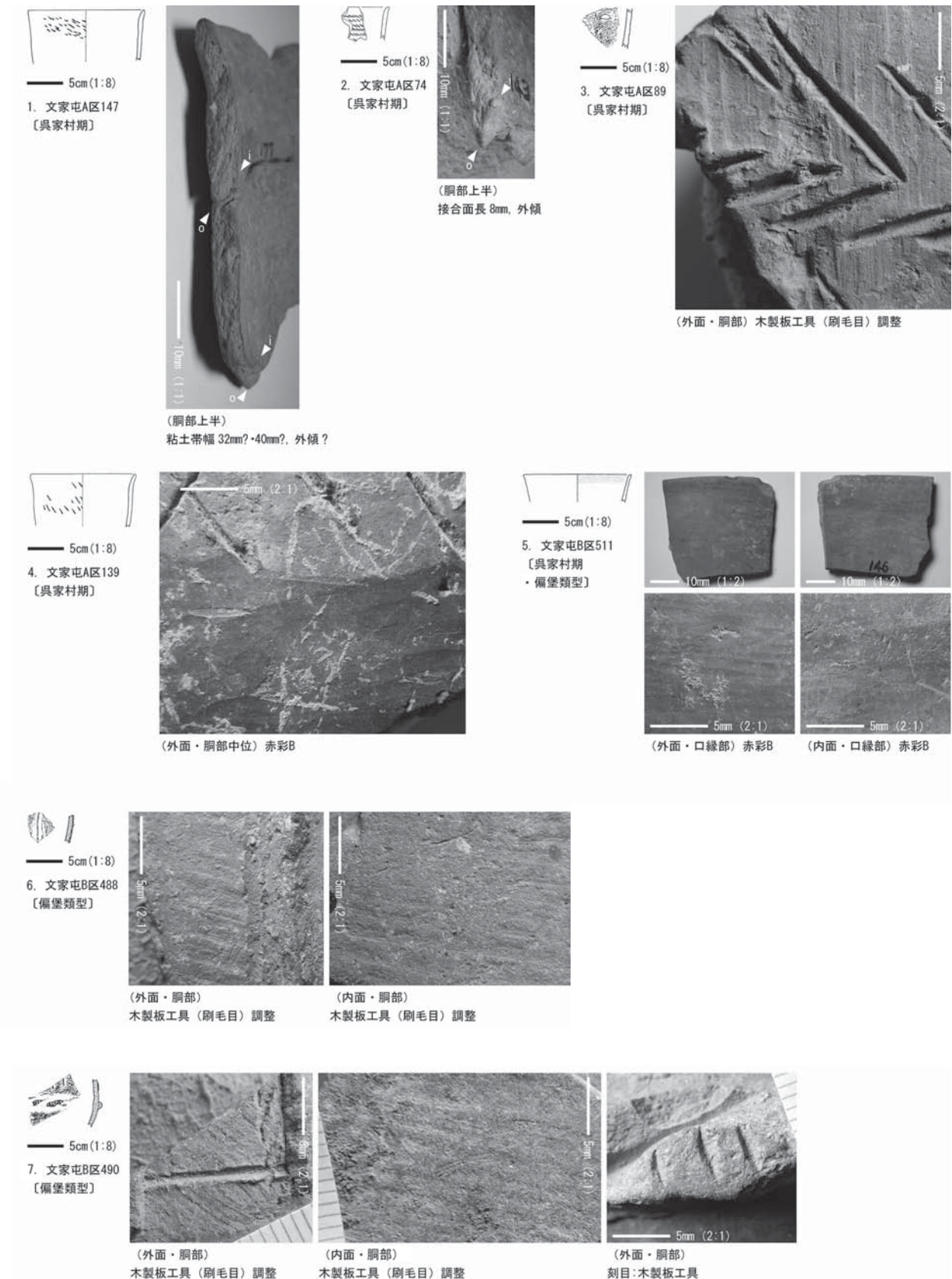
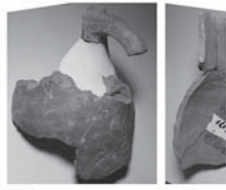
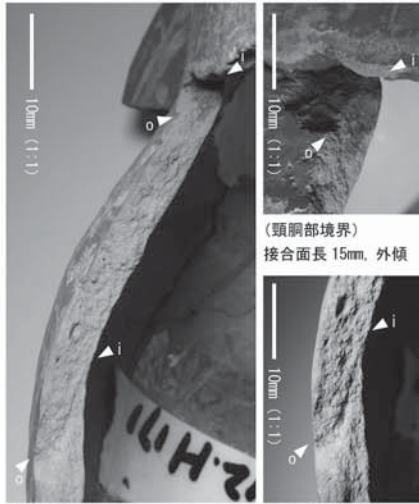


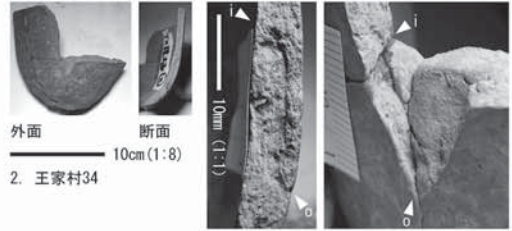
图77 遼東半島・文家屯遺跡の土器製作技術



外面 断面
10cm (1:8)
1. 王家村3

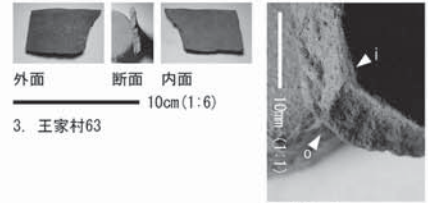


(頸胸部境界)
接合面長 15mm, 外傾
(胸部)
粘土帶幅 48mm
(胸部中位)
接合面長 15mm, 外傾



外面 断面
10cm (1:8)
2. 王家村34

(胸部中位) 接合面長 19mm, 外傾

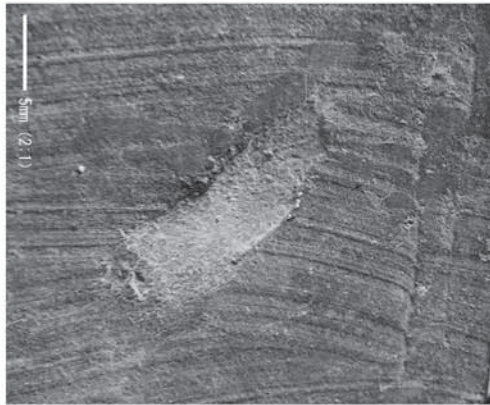


外面 断面 内面
10cm (1:6)
3. 王家村63

(口縁部下)
接合面長 9mm, 外傾



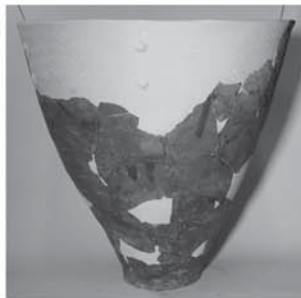
外面
10cm (1:8)
4. 王家村2



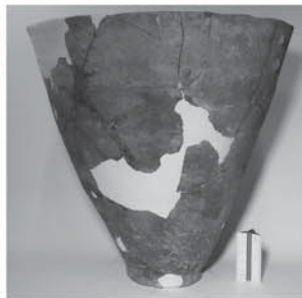
(内面・胸部上半) 木製板工具(刷毛目)調整



外A面



外A-B面



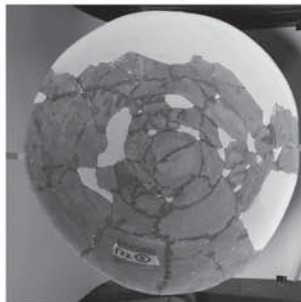
外B面



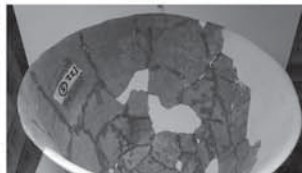
外B-A面



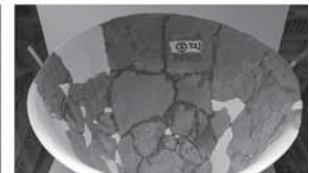
内A面



上面/内面



内B面



内B-A面

10cm (1:8)
5. 王家村6

图78 遼東半島・王家村遺跡の土器製作技術 1

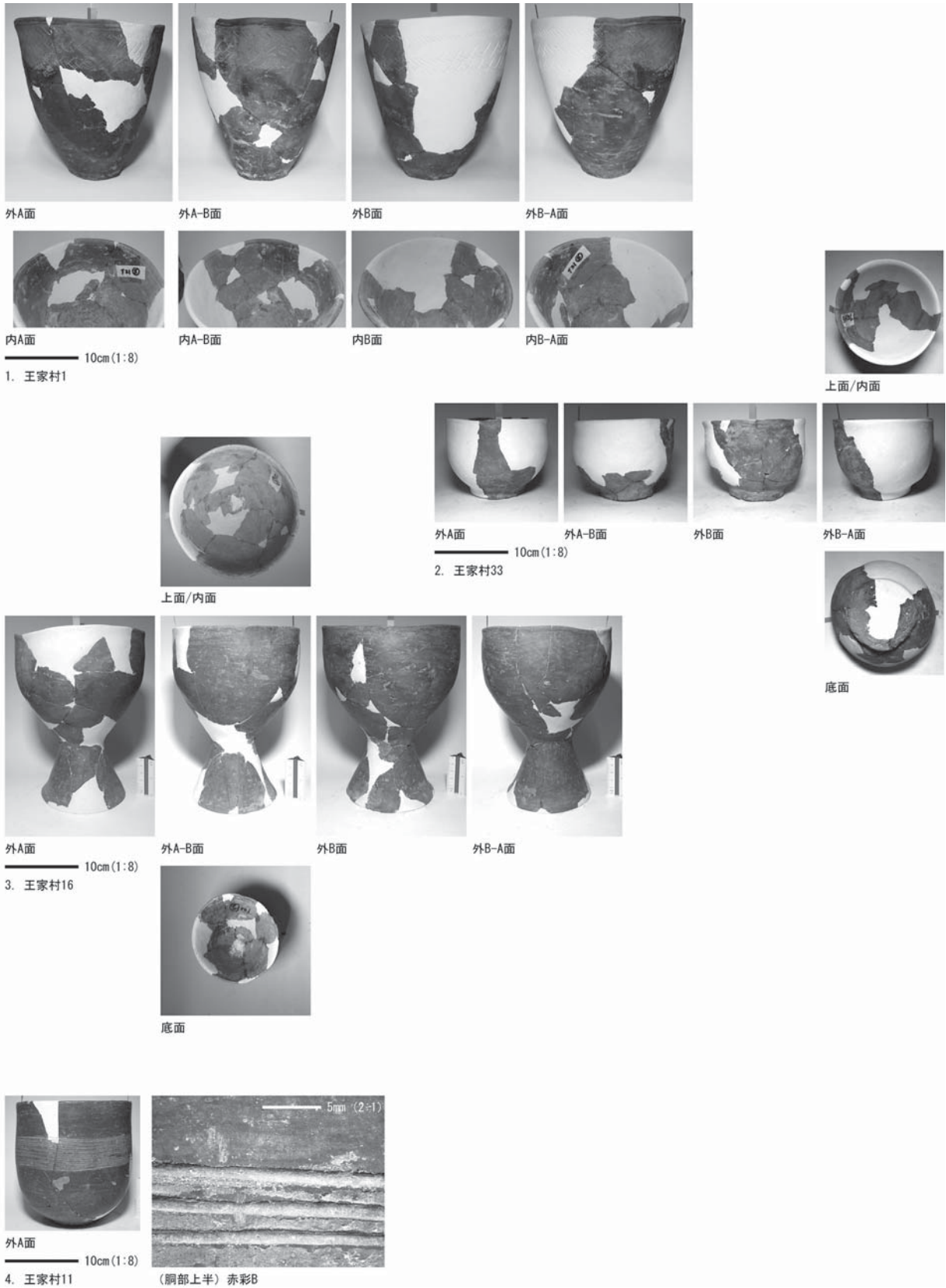


图79 辽东半岛·王家村遗址の土器製作技術2

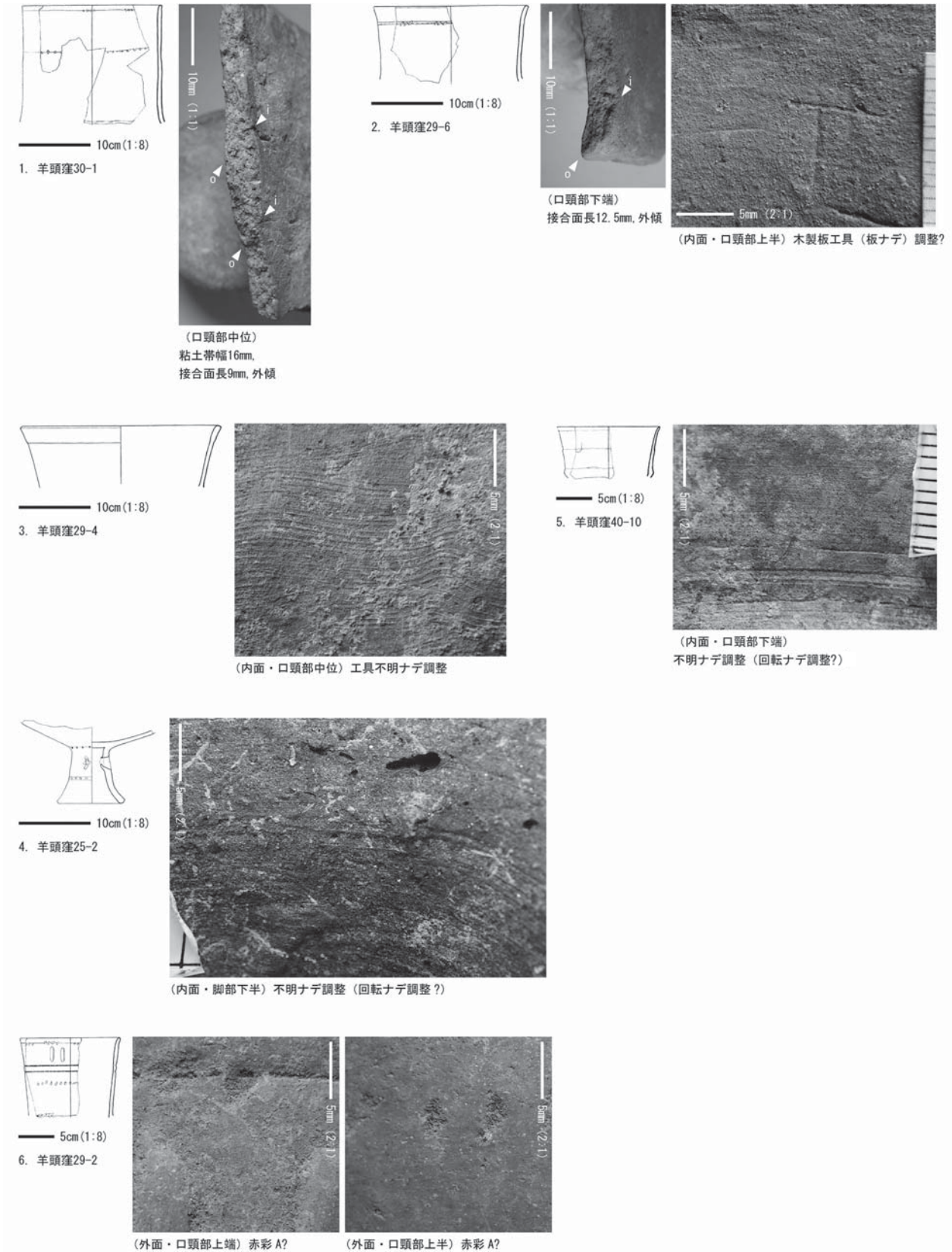


図80 遼東半島・羊頭窪遺跡の土器製作技術

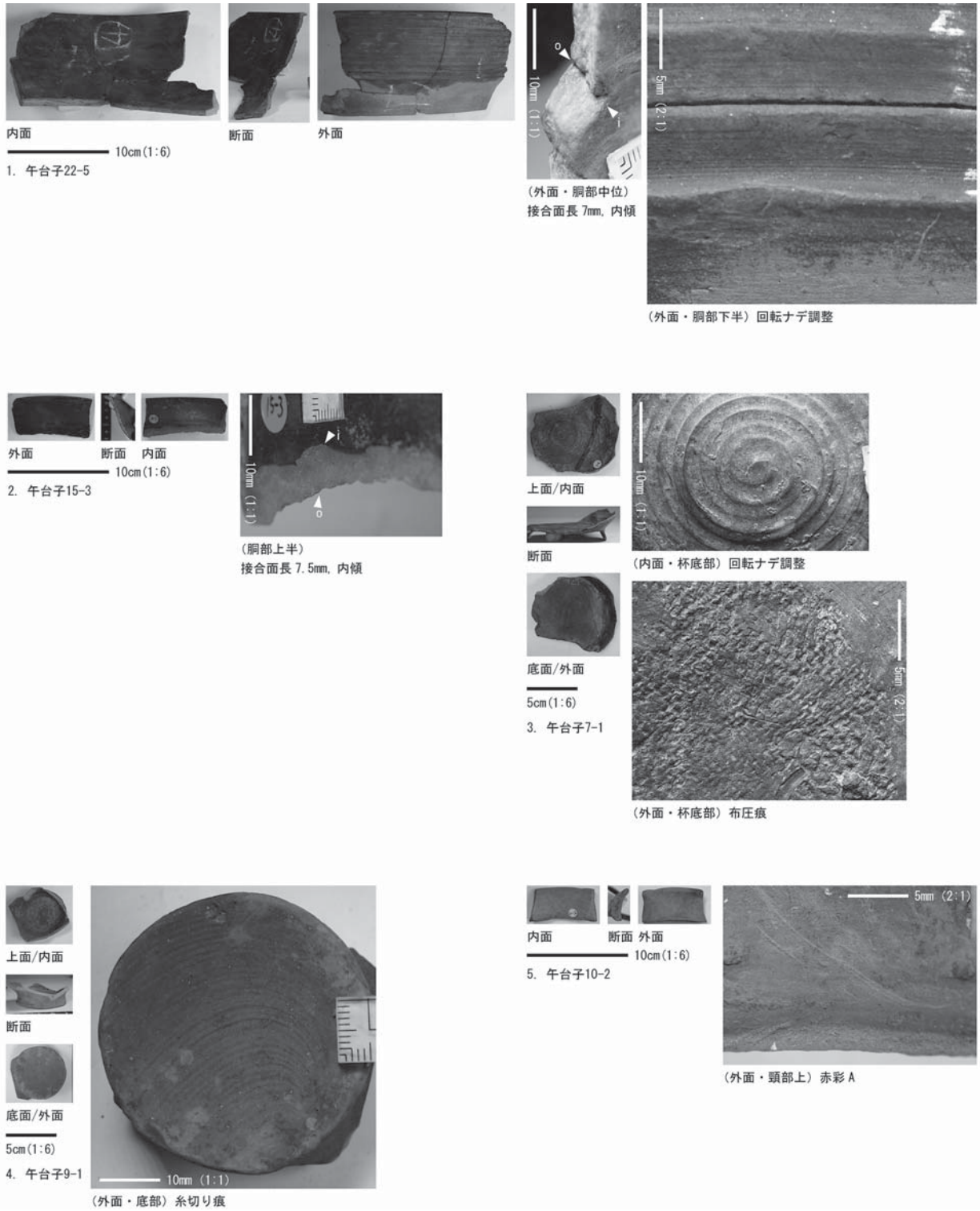


図81 膠東半島・午台子遺跡の土器製作技術

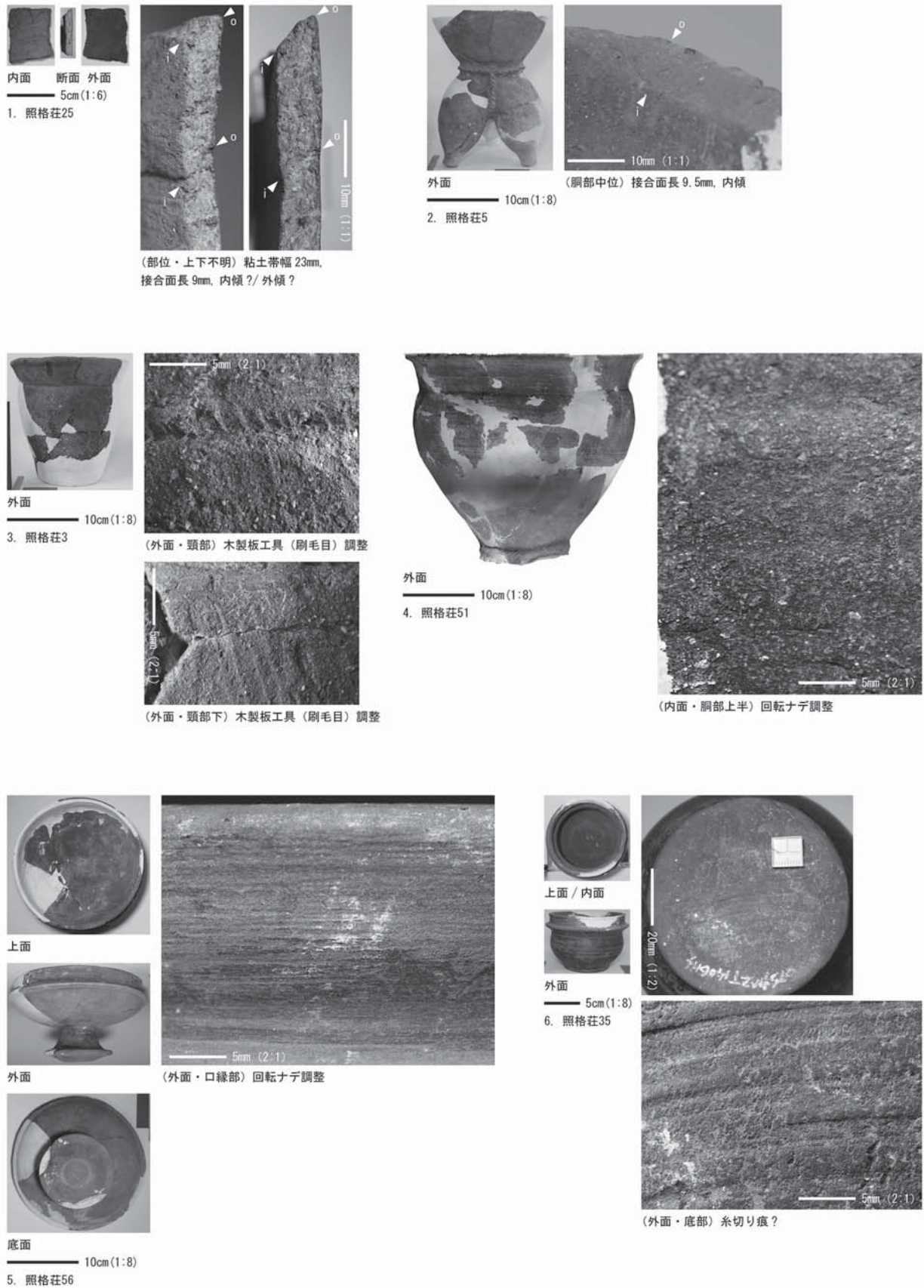


図82 膠東半島・照格莊遺跡の土器製作技術

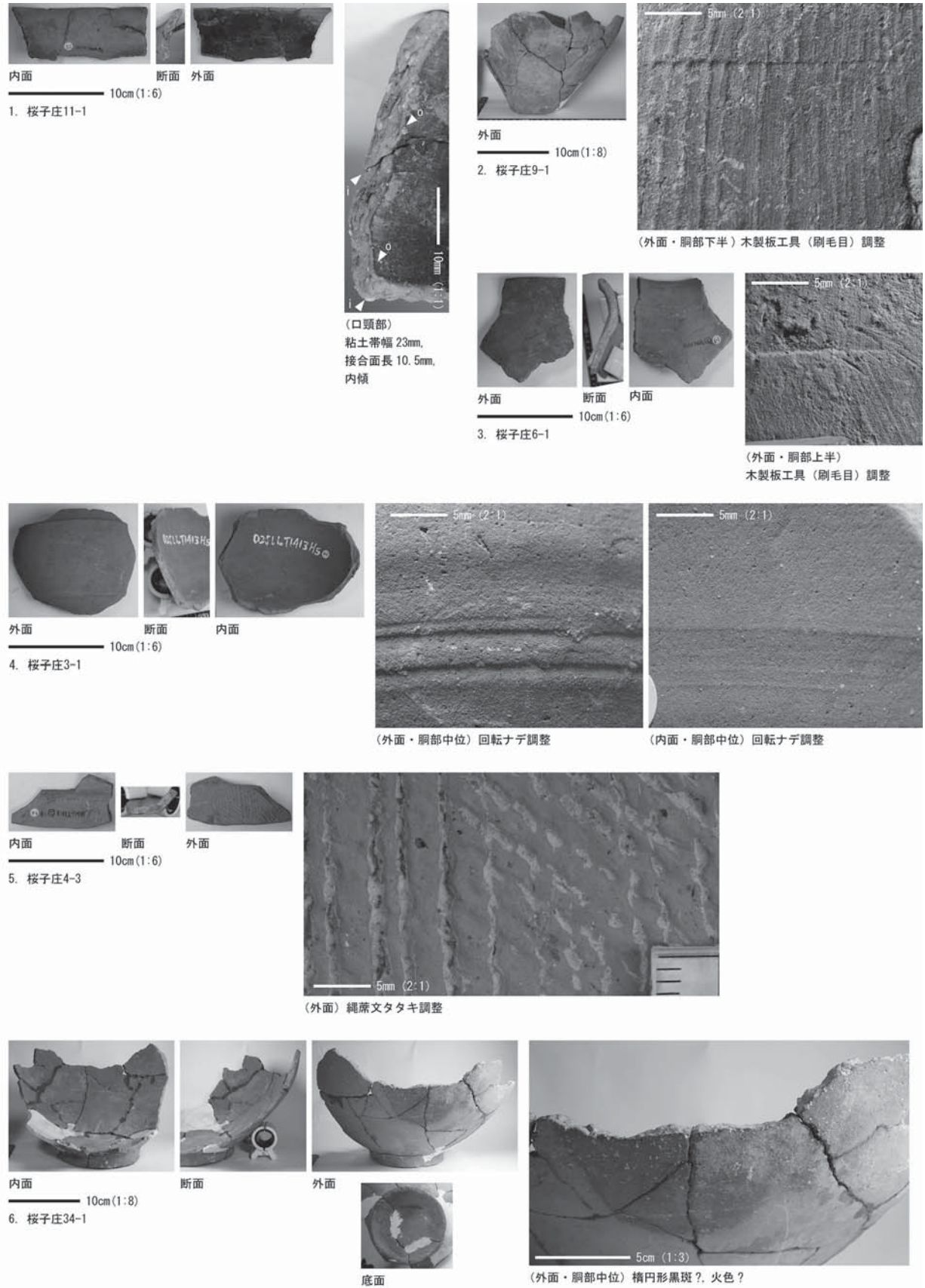


図83 膠東半島・桜子庄遺跡の土器製作技術

③楼子庄遺跡

粘土帯の積み上げ方法は粘土帯幅 - 中間?、接合面長 - 短~中間、接合面の傾き - 内傾 + 外傾 (+ 水平) である (図83-1)。木製板工具調整は観察した個体の約2割にみられる (図83-2・3)。また、回転ナデ調整は観察した個体のうち約2割に認められる (図83-4・5)。縄蓆文を有するタタキも存在する (図83-5)。焼成方法についてみる。色調は赤褐色のもの (図83-1・2・3・6) と灰色のもの (図83-4・5) が存在し、前者が多い点の特徴である。赤褐色の土器のうち1点のみであるが、楕円形黒斑と火色を有する個体がみられ (図83-6)、覆い型野焼きの可能性もある。また、西周文化併行期には周辺地域で昇焰式窯Ⅲ式と半倒焰式窯が共存することから (徳留2016)、灰色の土器についてはこれらの窯で焼成された可能性がある。

なお、色調と製作技術の関係をみると、赤褐色の土器は木製板工具調整、灰色の土器は回転ナデ調整や縄蓆文タタキが伴っている。日本列島の須恵器と土師器のように異なる製作技術をもつ土器が併存した状況が想定される。

3. 考 察

(1) 土器製作技術の時間的変化

①遼東半島

以前、上馬石貝塚出土土器の分析を通じ、遼東半島の新石器時代から青銅器時代における土器製作技術の変化を示した (三阪2015)。今回は上馬石貝塚で欠けていた時期や、サンプル数が確保できなかった時期の資料を追加したため、再度、土器製作技術の時間的な変化についてまとめておきたい。

まず、小珠山下層期、呉家村期・偏堡類型、小珠山上層期以降で土器製作技術が大きく変化していることがわかる (表13)。小珠山下層期から呉家村期・偏堡類型にかけ、粘土帯の積み上げ方法のうち粘土帯幅・接合面長の値が大きくなる傾向にあり、接合面の傾きは内傾・水平・外傾など多様である状況から、ほぼ外傾に集約される。また、呉家村期・偏堡類型には木製板工具調整が出現するとともに、赤彩Bが認められるようになる。遼東半島の呉家村期には、膠東半島の北荘2期に由来する土器が一定量存在し、土器様式の一部を構成していると指摘されている (古澤2018, pp.76)。ここでは同時期の膠東半島の土器製作技術は未検討であるが、膠東半島の北荘2期は、大汶口文化の系統の土器であり、山東龍山文化と同様な技術基盤にあると想定され、その場合は遼東半島の土器製作技術の変化の背景を膠東半島の影響に求められない。呉家村期は偏堡類型と併行する段階と考えられており (宮本1995・2015a・2017b)、遼東半島の土器製作技術の変化は、遼西東部・遼河流域に起源する偏堡類型の影響が想定される。

小珠山上層期には、黒陶が出現するとともに、前段階までに存在が確認されない回転ナデ調整や平行条線タタキ、四平山積石塚では底部糸切り痕が出現しており (宮本2008)、これらの技術はロクロの使用を暗示する。後述するように、山東半島や膠東半島から龍山文化期の文化要素が受容され、土器製作技術にも大きな影響を与えたと考えられる。

②膠東半島

本分析では、膠東半島〔山東半島〕の楊家圈2期〔龍山文化前期〕、照格莊期〔岳石文化期〕、珍珠門期~西周〔岳石文化期~西周〕の土器製作技術を明らかにした。これらは時期的に連続的するものではないが、時期ごとの製作技術的な特徴を整理しておく。楊家圈2期〔龍山文化前期〕には、いわゆる黒陶が中心となる。回転ナデ調整や底部糸切り痕などがみられ、ロクロの採用や昇焰式窯での焼

成が想定される。

楊家圈3期〔龍山文化後期〕を経て、照格莊期〔岳石文化期〕になると、楊家圈2期と同様、回転ナデ調整や底部糸切り痕を有する可能性がある個体が認められる。ただし、回転ナデ調整が確認される個体の頻度は低下する。還元焰焼成とみられる灰色の土器は、周辺地域の状況から昇焰式窯の使用が推定される。

芝水期〔岳石文化期〕をはさみ珍珠門期～西周〔岳石文化期～西周〕になると、還元焰焼成されたとみられる灰色の土器の比率が低下し、酸化焰焼成されたとみられる赤褐色を呈する土器が中心となる。灰色の土器には、回転ナデ調整や縄蓆文タタキが確認され、周辺地域の状況から昇焰式窯や半倒焰式窯が使用されたと推定される。一方、赤褐色の土器には木製板工具調整が多用され、黒斑の状況からは覆い型野焼きが採用されていた可能性がある。こういった技術は朝鮮半島南部の青銅器時代の土器や弥生土器と共通するが、粘土の積み上げ方法については異なっている。山東半島と朝鮮半島南部・日本列島にみる製作技術的共通性は偶然の一致であるのか、何らかの関係性があるのかは不明である。当該期に赤褐色の土器の比率が高くなる点は、原始的な土器製作に回帰したような状況とも捉えられ注目される。この現象について、社会的・文化的背景をふまえ説明することが今後の課題となる。

(2) 土器製作技術からみた地域間関係

① 膠東半島と遼東半島

龍山文化併行期には、黒陶に代表される様々な文化要素が山東半島から遼東半島へもたらされることが知られている。宮本(2008)は龍山文化前期を中心とする遼東半島四平山積石塚の出土土器を検討し、下記の見解を提示している。同遺跡の副葬品には黒陶と紅褐陶が共存し、基本的には黒陶が山東龍山文化、紅褐陶が在地に系譜があると指摘する。黒陶は器形だけではなく、底部糸切り痕などに山東半島との製作技術的共通性がみられるという。一方、黒陶のうち小型罐には在地の紅褐陶罐との形態的・製作技術的な共通性がみられ、これらは在地で製作されていた可能性が高いとみる。さらに、紅褐陶の一部にも山東龍山文化の影響を受けた器形が存在すると指摘する。上記の点から、宮本は黒陶も在地生産が基本であり、外来品は一部にとどまると結論づけている。

拙稿(三阪2015)と今回追加した資料のうち、膠東半島楊家圈2期の午台子遺跡、遼東半島小珠山上層期の上馬石貝塚の土器が龍山文化前期併行期に相当する。両者を比較した場合、従来から指摘されている形態や黒色化技術に加え、回転ナデ調整も共通する技術要素といえよう。底部糸切り痕については、遼東半島の上馬石貝塚では明確なものはみられなかったが、少なくとも四平山積石塚では存在している(宮本2008)。回転ナデ調整や底部糸切り痕からはロクロの使用が想定され、当該期にロクロが膠東半島から遼東半島に導入された可能性が示唆される。一方、遼東半島において、膠東半島ではみられない木製板工具調整が少数確認される。また、膠東半島に比べ遼東半島では、粘土帯の積み上げ方法のうち粘土帯幅と接合面長の値が大きい。以上の点は、前段階の呉家村期・偏堡類型の特徴とも共通しており、これらが次段階の小珠山上層期に継続されたとみることできる。そうであれば、在来の技術要素が残存し、膠東半島の土器との差異をなしていると評価される。

当該期の遼東半島において、前段階にはみられない山東半島・膠東半島に由来する技術要素が出現している状況は、これらの地域からの移住者が存在した可能性が高いことを示す。一方で、形態や技術が完全に同一ではなく差異を有する点は、在来者が移住者を受け入れ共存した状況のなかで、在来伝統を基盤に外来技術を受容しつつ土器製作を行っていたことが想定される。また、当該期は宮本

(2017a) の東北アジア初期農耕化第2段階に相当し、遼東半島では従来のアワ・キビ栽培に加え、山東半島から栽培イネが流入した段階とされる。この点が外来の文化要素を受容した背景の一因になったと考えられる。

②遼東半島と朝鮮半島南部

朝鮮半島南部では新石器時代から青銅器時代の移行期に、北部の地域から文化要素が流入し、これが契機となり文化変化が生じている。これらの文化要素の故地については、遼東半島から朝鮮半島西北部とする説、朝鮮半島東北部とする説、その両者とする説にわかれる。以前、当課題の解決をひとつの目的とし、朝鮮半島南部の青銅器時代開始期と共通する土器製作技術が、遼東半島上馬石貝塚の新石器時代から青銅器時代の土器にみられないかについて検討した。その結果、同時期の双砵子3期前後には共通する技術要素はほとんど認められず、むしろ数段階遡る偏壘類型に一定の共通性をもつ技術が認められることを指摘した。この点をふまえ、青銅器時代開始期の土器製作技術の系譜が、間接的にはあるが、遼東半島にもとめうる可能性があるとした(三阪2015)。

今回は上馬石貝塚で欠落していた、またはサンプル数が少量であった呉家村期・偏壘類型、双砵子3期の資料を追加しえたため、再度上記の点について検討したい。まず、朝鮮半島南部の新石器時代後晩期から青銅器時代への土器製作技術の変化は次の通りである。粘土帯の積み上げ方法のうち粘土帯幅は幅狭から幅広へ、接合面長は短から長へ、接合面の傾きは内傾・外傾・水平から外傾へほぼ統一される。器面調整は青銅器時代以降、木製板工具調整が器壁全面に多用されるようになる。焼成方法については、青銅器時代早期、遅くとも前期の早い段階には、覆い型野焼きの特徴を示す黒斑をパターンを有する土器が出現している。新石器時代後晩期の資料については、残存度の高い個体が少なく不明瞭な点も残されるが、少なくとも覆い型野焼きとみられる黒斑の特徴を示すものはなく、開放型野焼きが採用されていたと推定される。

改めて、時間的に併行する朝鮮半島南部の青銅器時代開始期と遼東半島羊頭窪遺跡の双砵子3期前半の土器製作技術を比較した場合、やはり両者の共通性が低いことが明らかとなった(表13)。粘土帯の積み上げ方法については、接合面の傾きが外傾である点は共通するが、粘土帯幅や接合面長の値をみると、朝鮮半島南部に比べ双砵子3期の値が小さい点で異なっている。また、青銅器時代開始期以降、木製板工具調整のなかでも刷毛目調整が器壁全体にわたり多用されているのに対し、羊頭窪遺跡では刷毛目調整はみられず、板ナデ調整を部分的に施した個体がわずかに認められる程度である(図80-2)。また、スリップ赤彩(本稿の赤彩A)は青銅器時代早期に出現し、青銅器時代を通じて普及する(宋2016)。一方、今のところ羊頭窪遺跡で赤彩Aの確実な事例はなく、その可能性がある個体がわずかに含まれるのみである(図80-6)。

前述のように、朝鮮半島南部の青銅器時代開始期と一定の共通性をもつ土器製作技術が、遼東半島の上馬石貝塚出土土器では数段階遡る偏壘類型に確認されたが、分析しえたサンプル数が限られていた(三阪2015)。今回は、偏壘類型およびこれと併行する段階の呉家村期の資料を追加した。その結果、呉家村期・偏壘類型にかけ木製板工具調整が認められる頻度が高く、この点は朝鮮半島南部青銅器時代開始期と共通していることがわかった。粘土帯の積み上げ方法については、接合面の傾きが外傾である点は共通する。ただし、全体的な傾向として、遼東半島は朝鮮半島南部に比べ接合面長の値が小さい点で異なっている。なお、朝鮮半島南部の粘土帯の積み上げ方法と、相対的に類似性の高い傾向が、王家村遺跡の資料に認められた。粘土帯幅がわかるものは2点のみであるが、朝鮮半島南部と類似する値を示す。一方で、接合面長の値はやや小さい。

焼成方法が一定程度復元できる資料が王家村遺跡で確認され、その黒斑パターンから開放型野焼き

の可能性がある個体が認められた。ただし、覆い型野焼きの黒斑パターンに近いものも存在し、焼成方法については検討の余地がある³。これに対し、朝鮮半島南部の青銅器時代開始期以降は覆い型野焼きが中心となる。赤彩については、呉家村期・偏堡類型に赤彩Bが多くみられるが、これは朝鮮半島南部の青銅器時代開始期以降に普及する赤彩A（スリップ赤彩）とは異なる技術である⁴。

以前、限られた資料数のなかで、遼東半島の偏堡類型と朝鮮半島南部の青銅器時代開始期における土器製作技術の共通性から、両者が系譜関係にある可能性を指摘した。系譜関係を認めた場合、遼東半島に由来する土器製作技術が、時間の経過とともに朝鮮半島西北部を介して同南部に到達したと考えうる。一方で、時期的・空間的な距離を勘案すると、両者は系譜関係にない可能性も残されるとした（三阪2015）。今回の遼東半島の呉家村期・偏堡類型の土器の分析を通じ、朝鮮半島南部青銅器開始期の土器製作技術のうち、確実に共通性をもつといえるのは木製板工具調整であることを明らかにした。一方で粘土帯の積み上げ方法には共通性と差異、焼成方法と赤彩には差異がみられた。これが青銅器時代開始期の土器製作技術の系譜となりうるかについては、遼河下流域や朝鮮半島西北部の資料との比較をふまえ慎重に検討する必要がある。

おわりに

以上の分析結果をまとめると下記の通りである。

- ①遼東半島の呉家村期・偏堡類型と双砬子3期前半および、膠東半島〔山東半島〕の楊家圈2期〔龍山文化前期〕、照格莊期〔岳石文化期〕、珍珠門期～西周〔大辛莊期～西周〕における土器製作技術の特徴を明らかにした。
- ②遼東半島では小珠山下層期、呉家村期・偏堡類型、小珠山上層期以降とで土器製作技術に明確な変化が認められた。呉家村期・偏堡類型における変化は、遼西東部・遼河流域に起源する偏堡類型の文化要素の流入が要因となる可能性があった。小珠山上層期における変化は、龍山文化期の山東半島・膠東半島からの文化要素の流入が主要因と考えられた。
- ③膠東半島では楊家圈2期の黒陶に、回転ナデ調整や底部糸切り痕などが認められ、ロクロが採用されていた可能性があった。また、周辺の窯の分布状況から昇焰式窯での焼成が推定された。珍珠門期～西周には、木製板工具調整が多用され、覆い型野焼きが採用されていた可能性がある赤褐色の土器が中心となる。一方で、回転ナデ調整や縄蓆文タタキを有し、窯焼成と推定される灰色の土器の比率が低くなる。製作技術の異なる土器が共存し、むしろ原始的な技術の土器の方が中心的になる点が注目された。
- ④龍山文化併行期において、山東半島・膠東半島から遼東半島へ複数の文化要素がもたらされ、これが土器製作技術にまで及ぶ点から、移住者が存在した可能性が高いといえた。一方、形態と製作技術は完全に同一ではなく、差異が少なからずみられる点からは、在来者が移住者と共存しつつ、在来の土器製作伝統のなかに移住者の技術を取り込んでいく状況が想定された。
- ⑤朝鮮半島南部の青銅器時代開始期と一定の共通性をもつ土器製作技術は、遼東半島では同時期に認められず、数段階遡る呉家村期・偏堡類型に存在することを明らかにした。ただし、両地域の土器製作技術は完全に同一ではなく差異も認められた。両地域の土器とその製作技術が系譜関係にあるのかについては、周辺地域の偏堡類型ならびに中間地域の土器との比較をふまえ慎重に検討する必要がある。

謝 辞

中国での調査の際には、山東大学の欒豊実先生、王芬先生、王強先生をはじめとする諸先生方、学生・大学院生の方々にお力添え・ご支援を賜りました。そして烟台市博物館の王富強先生、牟平区博物館の関係者の方々から多くのご協力をえました。京都大学人文科学研究所の調査では岡村秀典先生、京都大学総合博物館の調査では村上由美子先生、横山操氏、西原和代氏に、複数回にわたり多くの資料をご準備していただくとともに、多くの助言をいただきました。また、徳留大輔氏には中国先史時代の窯についてご教示いただきました。記して感謝申し上げます。

本研究成果は JSPS 科研費 JP15H03266、JP16K16941、JP17K03210、JP18H00746 の助成を受けました。

註

- 1 徳留 (2016) によって示された、中国における窯の変遷を整理すると下記の通りである。裴李岡文化併行期に昇焰式窯Ⅰ類 (横穴式) を中心とする昇焰式窯が少数出現する。次の仰韶文化期併行期になると、昇焰式窯Ⅱ式 (横穴式と竪穴式の間形態) が中心となり、同期前半はⅡ a 類 (焼成室床面に環状の通焰道を設ける)、同期後半はⅡ b 類 (燃烧室から焼成室の後壁に向けて細い複数の通焰道が結ぶ) が主流となる。廟底溝二期文化併行期 (龍山文化前期) から龍山文化後期併行期においても、昇焰式窯Ⅱ b 式がなお中心的であるが、龍山文化後期併行期には昇焰式窯Ⅲ式 (竪穴式) と半倒焰式窯が出現する。二里頭文化併行期には昇焰式窯Ⅲ式に集約されるとともに龍窯の出現が認められる。西周文化併行期には、昇焰式窯Ⅲ式と半倒焰式窯が中心となり両者が共存する。
- 2 一部の分析項目や分類基準などについて、以前の上馬石貝塚出土土器の分析 (三阪2015) から追加・修正した部分がある。そのため上馬石貝塚出土土器についても付表に含め提示した。
- 3 上馬石貝塚出土土器のうち偏堡類型の1点 (三阪2015: p.197, 図133-1) に、覆い型野焼きの可能性のある黒斑パターンが認められるとしたが、これについても検討の余地がある。
- 4 前稿では、上馬石貝塚出土土器のうち、偏堡類型の資料に赤色磨研が認められるとしたうえで、朝鮮半島南部の青銅器時代の赤色磨研 (赤彩 A) との類似性を指摘した (三阪2015: p.197, 図134-1)。上馬石貝塚の偏堡類型の事例は、他遺跡の呉家村期・偏堡類型の事例と同様、すべて赤彩 B であり、朝鮮半島南部の赤彩 A とは異なる技術であることを確認した。当該期の両地域における赤彩技術が類似性をもつとした点について撤回したい。

文 献

- 古澤義久 2007「遼東地域と韓半島西北部先史土器の編年と地域性」『東京大学考古学研究室紀要』21, pp.83-131.
- 古澤義久 2018『東北アジア先史文化の変遷と交流』六一書房.
- 小林正史・鐘ヶ江賢二 2006「縄文土器から弥生土器への彩色手法の変化」小林正史 (編)『黒斑からみた縄文・弥生土器・土師器の野焼き方法』, 平成16・17 年度科学研究費補助金 (基盤研究 (C)) 研究成果報告書, pp.383-402.
- 小林正史・北野博司・久世健二・小嶋俊彰 2000「北部九州における縄文・弥生土器の野焼き方法の変化」『青丘学術論集』17, pp.5-140.
- 三阪一徳 2012「土器製作技術からみた韓半島南部新石器・青銅器時代移行期: 縄文・弥生移行期との比較」『第10回九州考古学会・嶺南考古学会合同考古学大会』, pp.219-248.
- 三阪一徳 2014「土器からみた弥生時代開始過程」古代学協会 (編)『列島初期稲作の担い手は誰か』すいれん舎, pp.125-174.
- 三阪一徳 2015「遼東半島先史時代の土器製作技術: 上馬石貝塚を中心として」宮本一夫 (編)『遼東半島上馬石貝塚の研究』九州大学出版会, pp.179-202.
- 三阪一徳 2016「日本列島・朝鮮半島南部の稲作受容期における土器製作技術の変容過程解明への予察」田中良之先生追悼論文集編集委員会 (編)『考古学は科学か: 田中良之先生追悼論文集』中国書店, pp.287-303.
- 宮本一夫 1995「遼東新石器時代土器編年の再検討」秋山進午 (編)『東北アジアの考古学的研究』同朋舎出版, pp.116-143.
- 宮本一夫 2007「東北アジアの農民化」『講座日本の考古学』第6巻, 青木書店, pp.3-35.
- 宮本一夫 2008「黒陶と紅褐陶の編年からみた石積塚の変遷」澄田正一・小野山節・宮本一夫 (編)『遼東

- 半島四平山積石塚の研究』柳原出版, pp.131-140.
- 宮本一夫 2009『農耕の起源を探る：イネの来た道』吉川弘文館.
- 宮本一夫 2015a「遼東半島土器編年と上馬石貝塚出土土器の位置づけ」宮本一夫（編）『遼東半島上馬石貝塚の研究』九州大学出版会, pp.124-178.
- 宮本一夫 2015b「上馬石貝塚からみた遼東半島先史時代」宮本一夫（編）『遼東半島上馬石貝塚の研究』九州大学出版会, pp.259-287.
- 宮本一夫 2017a「東北アジアにおける先史時代の人類の拡散：東北アジア初期農耕化4段階説」『東北アジアの初期農耕と弥生の起源』同成社, pp.1-21.
- 宮本一夫 2017b「朝鮮半島無文土器社会の成立」『東北アジアの初期農耕と弥生の起源』同成社, pp.125-150.
- 小畑弘己 2016「上馬石貝塚出土土器圧痕調査の成果」宮本一夫（編）『遼東半島上馬石貝塚の研究』九州大学出版会, pp.228-252.
- 岡村秀典（編）2002『文家屯：1942年遼東先史遺跡発掘調査報告書』遼東先史遺跡発掘報告書刊行会.
- 岡村秀典・松野元宏 2002「年代」岡村秀典（編）『文家屯：1942年遼東先史遺跡発掘調査報告書』遼東先史遺跡発掘報告書刊行会, pp.107-109.
- 宋永鎮 2016『韓半島 青銅器時代 磨研土器 研究』慶尙大學校博士學位論文.
- 東亜考古学会（編）1943『羊頭窪：関東州旅順鳩湾内における先史遺蹟』東方考古學叢刊乙種第3冊.
- 徳留大輔 2016「中国新石器時代から西周時代における窯構造の変遷と地域性」田中良之先生追悼論文集編集委員会（編）『考古学は科学か：田中良之先生追悼論文集』中国書店, pp.1077-1096.
- 家根祥多 1984「縄文土器から弥生土器へ」『縄文から弥生へ』帝塚山考古学研究所, pp.49-78.
- 横山浩一 1978「刷毛目調整工具に関する基礎的実験」『九州文化史研究所紀要』23, pp.1-24.

表14 土器製作技術の諸属性

地域	遺跡	調査区、遺構、層位等(未報告資料は注記を記載)	報告No.	箱No.	時期	粘帯幅 mean	接面長 mean	接面傾. 大	接面傾. 細	調整. 外/内. 大	調整. 外/内. 中	調整. 外/内. 細	ミ、外 /内	板工 具種 類	回ナ. 大	回ナ. 外/ 内. 細	タ、種 類、部 位	焼成	赤彩	底部 布圧	底部 糸切 り痕
遼東	上馬石	A区,包,下層	1		双2,3-上上(A,F)			外	外	ナ	不/ナ	不/板ナ?	-/-	-	-	-	-	-	-	-	-
遼東	上馬石	A区,包,下層	3		双2,3-上上(A,F)			不	不	ナ	ナ/ナ	ナ/ナ	-/-	-	+	-/+	-	-	-	-	-
遼東	上馬石	A区,包,下層	4		双2,3-上上(A,F)			不	不	ナ	ナ/ナ	ナ/ナ	-/-	-	+	-/+	-	-	-	-	-
遼東	上馬石	A区,包,下層	5		双2,3-上上(A,F)			外	外	ナ	ナ/ナ	ナ/ナ	+/-	-	-	-/-	-	-	-	-	-
遼東	上馬石	A区,包,下層	6		双2,3-上上(A,F)			外	外	ナ	ナ/ナ	ナ/ナ	-/-	-	+	+/+	-	-	-	-	-
遼東	上馬石	A区,包,下層	7		双2,3-上上(A,F)			不	外?	ナ	ナ/ナ	ナ/ナ	-/-	-	+	+/+	-	-	-	-	-
遼東	上馬石	A区,包,下層	8		双2,3-上上(A,F)		19.0	外	外	ナ	ナ/ナ	ナ/ナ	-/-	-	+	+/+	-	-	-	-	-
遼東	上馬石	A区,包,下層	10		双2,3-上上(A,F)			不	外?	ナ	ナ/ナ	ナ/ナ	+/-	-	+	+/-	-	-	-	-	-
遼東	上馬石	A区,包,下層	11		双2,3-上上(A,F)			不	不	ナ	ナ/ナ	ナ/ナ	+/-	-	-	-/-	-	-	-	-	-
遼東	上馬石	A区,包,下層	12		双2,3-上上(A,F)			不	不	ナ	ナ/ナ	ナ/ナ	+/-	-	+	+/-	-	-	-	-	-
遼東	上馬石	A区,包,下層	13		双2,3-上上(A,F)			不	外?	ナ	ナ/ナ	ナ/ナ	+/-	-	+	+/-	-	-	-	-	-
遼東	上馬石	A区,包,下層	14		双2,3-上上(A,F)			不	不	ナ	ナ/ナ	ナ/ナ	-/-	-	+	-/+	-	-	-	-	-
遼東	上馬石	A区,包,下層	15		双2,3-上上(A,F)			外	外	ナ	ナ/ナ	ナ/ナ	+/-	-	+	+/-	-	-	-	-	-
遼東	上馬石	A区,包,下層	16		双2,3-上上(A,F)		12.0	外	外	ナ	ナ/ナ	ナ/ナ	+/-	-	-	-/-	-	-	-	-	-
遼東	上馬石	A区,包,下層	17		双2,3-上上(A,F)			不	不	ナ	ナ/ナ	ナ/ナ	+/-	-	-	-/-	-	-	-	-	-
遼東	上馬石	A区,包,下層	18		双2,3-上上(A,F)			不	不	ナ	ナ/ナ	ナ/ナ	+/-	-	-	-/-	-	-	-	-	-
遼東	上馬石	A区,包,下層	19		双2,3-上上(A,F)			不	不	ナ	ナ/ナ	ナ/ナ	+/-	-	-	-/-	-	-	-	-	-
遼東	上馬石	A区,包,下層	20		双2,3-上上(A,F)		18.0	外	外	ナ	ナ/ナ	ナ/ナ	-/-	-	+	+/-	-	-	-	-	-
遼東	上馬石	A区,包,下層	21		双2,3-上上(A,F)		12.0	外	外	ナ	ナ/ナ	ナ/ナ	+/-	-	-	-/-	-	-	-	-	-
遼東	上馬石	A区,包,下層	22		双2,3-上上(A,F)			不	不	ナ	ナ/ナ	ナ/ナ	+/-	-	-	-/-	-	-	-	-	-
遼東	上馬石	A区,包,下層	23		双2,3-上上(A,F)			不	不	ナ	ナ/ナ	ナ/ナ	+/-	-	-	-/-	-	-	-	-	-
遼東	上馬石	A区,包,下層	24		双2,3-上上(A,F)			不	不	ナ	ナ/ナ	ナ/ナ	+/-	-	-	-/-	-	-	-	-	-
遼東	上馬石	A区,包,下層	25		双2,3-上上(A,F)			不	不	ナ	ナ/ナ	ナ/ハ?,ナ	-/-	-	-	-/-	-	-	-	-	-
遼東	上馬石	A区,包,下層	26		双2,3-上上(A,F)			外	外	ナ	ナ/ナ	ナ/ナ	+/-	-	-	-/-	-	-	-	-	-
遼東	上馬石	A区,包,下層	27		双2,3-上上(A,F)			外	外	ナ	ナ/ナ	ナ/ナ	+/-	-	-	-/-	-	-	-	-	-
遼東	上馬石	A区,包,下層	28		双2,3-上上(A,F)			外	外	ナ	ナ/ナ	ナ/ナ	+/-	-	-	-/-	-	-	-	-	-
遼東	上馬石	A区,包,下層	29		双2,3-上上(A,F)		18.0	外	外	ナ	ナ/ナ	ナ/ナ	+/-	-	-	-/-	-	-	-	-	-
遼東	上馬石	A区,包,下層	30		双2,3-上上(A,F)			不	不	ナ	ナ/ナ	ナ/ナ	-/-	-	-	-/-	-	-	-	-	-
遼東	上馬石	A区,包,下層	31		双2,3-上上(A,F)			不	不	ナ	ナ/ナ	ナ/ナ	-/-	-	-	-/-	-	-	-	-	-
遼東	上馬石	A区,包,下層	32		双2,3-上上(A,F)			不	不	ナ	ナ/ナ	ナ/ナ	-/-	-	+	+/-	-	-	-	-	-
遼東	上馬石	A区,包,下層	33		双2,3-上上(A,F)			不	不	ナ	ナ/ナ	ナ/ナ	-/-	-	-	-/-	-	-	-	-	-
遼東	上馬石	A区,包,下層	34		双2,3-上上(A,F)			不	不	ナ	ナ/ナ	ナ/ナ	-/-	-	-	-/-	-	-	-	-	-
遼東	上馬石	A区,包,下層	35		双2,3-上上(A,F)			不	不	ナ	ナ/ナ	ナ/ナ	+/-	-	-	-/-	-	-	-	-	-
遼東	上馬石	A区,包,下層	36		双2,3-上上(A,F)			不	不	ナ	ナ/ナ	ナ/ナ	-/-	-	-	-/-	-	-	-	-	-
遼東	上馬石	A区,包,下層	38		双2,3-上上(A,F)			不	不	ナ	ナ/ナ	ナ/ナ	+/-	-	-	-/-	-	-	-	-	-
遼東	上馬石	A区,包,下層	39		双2,3-上上(A,F)			不	不	ナ	ナ/ナ	ナ/ナ	+/-	-	-	-/-	-	-	-	-	-
遼東	上馬石	A区,包,下層	40		双2,3-上上(A,F)			不	不	ナ	ナ/ナ	ナ/ナ	+/-	-	-	-/-	-	-	-	-	-
遼東	上馬石	A区,包,下層	41		双2,3-上上(A,F)			不	不	ナ	ナ/ナ	ナ/ナ	+/-	-	-	-/-	-	-	-	-	-
遼東	上馬石	A区,包,下層	42		双2,3-上上(A,F)			不	不	ナ	ナ/ナ	ナ/ナ	+/-	-	-	-/-	-	-	-	-	-
遼東	上馬石	A区,包,下層	43		双2,3-上上(A,F)		16.0	外	外	ナ	ナ/ナ	ナ/ナ	-/-	-	-	-/-	-	-	-	-	-
遼東	上馬石	A区,包,下層	44		双2,3-上上(A,F)			不	不	ナ	ナ/ナ	ナ/ナ	-/-	-	-	-/-	-	-	-	-	-
遼東	上馬石	A区,包,下層	45		双2,3-上上(A,F)			不	不	ナ	ナ/ナ	ナ/ナ	+/-	-	-	-/-	-	-	-	-	-
遼東	上馬石	A区,包,下層	46		双2,3-上上(A,F)			不	不	ナ	ナ/ナ	ナ/ナ	-/-	-	-	-/-	-	-	-	-	-
遼東	上馬石	A区,包,下層	47		双2,3-上上(A,F)		42.0	17.0	不	内?外?	板	板/ナ	-/-	ハ	-	-/-	-	-	-	-	-
遼東	上馬石	A区,包,下層	48		双2,3-上上(A,F)		14.0	15.0	外	外	ナ	不/ナ	-/-	-	-	-/-	-	-	-	-	-
遼東	上馬石	A区,包,下層	49		双2,3-上上(A,F)			外	外	ナ	ナ/ナ	ナ/ナ	-/-	-	-	-/-	-	-	-	-	-
遼東	上馬石	A区,包,上層	50		上上(A,A)		20.0	外	外	ナ	ナ/ナ	ナ/ナ	+/-	-	-	-/-	-	-	-	-	-
遼東	上馬石	A区,包,上層	51		上上(A,A)			外	外	ナ	ナ/ナ	ナ/ナ	+/-	-	-	-/-	-	-	-	-	-
遼東	上馬石	A区,包,上層	52		上上(A,A)			不	不	ナ	ナ/ナ	ナ/ナ	+/-	-	-	-/-	-	-	-	-	-
遼東	上馬石	A区,包,上層	53		上上(A,A)			不	不	ナ	ナ/ナ	ナ/ナ	+/-	-	-	-/-	-	-	-	-	-
遼東	上馬石	A区,包,上層	54		上上(A,A)			外	外	ナ	ナ/ナ	ナ/ナ	+/-	-	+	+/+	-	-	-	-	-
遼東	上馬石	A区,包,上層	55		上上(A,A)			不	外?	ナ	ナ/ナ	ナ/ナ	+/-	-	-	-/-	-	-	-	-	-
遼東	上馬石	A区,包,上層	56		上上(A,A)			不	不	ナ	ナ/ナ	ナ/ナ	+/-	-	-	-/-	-	-	-	-	-
遼東	上馬石	A区,包,上層	57		上上(A,A)			不	不	ナ	ナ/ナ	ナ/ナ	-/-	-	+	+/+	-	-	-	-	-
遼東	上馬石	A区,包,上層	58		上上(A,A)			外	外	ナ	ナ/ナ	ナ/ナ	+/-	-	-	-/-	-	-	-	-	-
遼東	上馬石	A区,包,上層	59		上上(A,A)			外	外	板	ナ/板	ナ/板ナ	+/-	-	-	-/-	-	-	-	-	-
遼東	上馬石	A区,包,上層	60		上上(A,A)		10.0	10.0	外	外	ナ	ナ/ナ	ナ/ナ	-/-	-	-	-/-	-	-	-	-
遼東	上馬石	A区,包,上層	61		上上(A,A)		30.0	20.0	外	外	ナ	ナ/ナ	+/-	-	-	-/-	-	-	-	-	-
遼東	上馬石	A区,包,上層	62		上上(A,A)			外	外	ナ	不/ナ	不/ナ	+/-	-	-	-/-	-	-	-	-	-
遼東	上馬石	A区,包,上層	63		上上(A,A)			不	不	ナ	不/不	不/不	-/-	-	-	-/-	-	-	-	-	-
遼東	上馬石	A区,包,上層	64		上上(A,A)			不	不	ナ	ナ/ナ	ナ/ナ	-/-	-	-	-/-	-	-	-	-	-
遼東	上馬石	A区,包,上層	65		上上(A,A)			不	不	ナ	ナ/ナ	ナ/ナ	-/-	-	+	+/+	-	-	-	-	-
遼東	上馬石	A区,包,上層	66		上上(A,A)			不	不	ナ	ナ/ナ	ナ/ナ	-/-	-	+	+/+	-	-	-	-	-
遼東	上馬石	A区,包,上層	67		上上(A,A)			外	外	ナ	ナ/ナ	ナ/ナ	+/-	-	-	-/-	-	-	-	-	-
遼東	上馬石	A区,包,上層	68		上上(A,A)			不	水?外?	ナ	ナ/ナ	ナ/ナ	-/-	-	-	-/-	-	-	-	-	-
遼東	上馬石	A区,包,上層	69		上上(A,A)			不	不	ナ	ナ/ナ	ナ/ナ	-/-	-	-	-/-	-	-	-	-	-
遼東	上馬石	A区,包,上層	70		上上(A,A)			不	不	ナ	ナ/ナ	ナ/ナ	-/-	-	+	+/+	-	-	-	-	-
遼東	上馬石	A区,包,上層	71		上上(A,A)			不	不	ナ	ナ/ナ	ハ?,ナ/ナ	-/-	-	+	+/+	-	-	-	-	-
遼東	上馬石	A区,包,上層	72		上上(A,A)			不	外?	ナ	ナ/ナ	ナ/ナ	-/-	-	-	-/-	-	-	-	-	-
遼東	上馬石	A区,包,上層	73		上上(A,A)			外	外	ナ	ナ/ナ	ナ/ナ	-/-	-	-	-/-	-	-	-	-	-
遼東	上馬石	A区,包,上層	74		上上(A,A)			不	不	ナ	ナ/ナ	ナ/ナ	-/-	-	-	-/-	-	-	-	-	-
遼東	上馬石	A区,包,上層	75		上上(A,A)			不	不	ナ	ナ/ナ	ナ/ナ	+/-	-	+	+/-	-	-	-	-	-
遼東	上馬石	A区,包,上層	76		上上(A,A)			不	不	ナ	ナ/ナ	ナ/ナ	-/-	-	-	-/-	-	-	-	-	-
遼東	上馬石	A区,包,上層	77		上上(A,A)			不	不	ナ	ナ/ナ	ナ/ナ	-/-	-	+	+/-	-	-	-	-	-
遼東	上馬石	A区,包,上層	78		上上(A,A)			不	不	ナ	ナ/ナ	ナ/板ナ?	-/-	-	-	-/-	-	-	-	-	-
遼東	上馬石	A区,包,上層	79		上上(A,A)			不	不	ナ	ナ/ナ	ナ/板ナ?	-/-	-	-	-/-	-	-	-	-	-
遼東	上馬石	A区,包,上層	80		上上(A,A)			不	不	ナ	ナ/ナ	ナ/ナ	+/-	-	-	-/-	-	-	-	-	-
遼東	上馬石	A区,包,上層	81		上上(A,A)			不	不	ナ	ナ/ナ	ナ/ナ	+/-	-	-	-/-	-	-	-	-	-
遼東	上馬石	A区,包,上層	82		上上(A,A)			不	不	ナ	不/ナ	不/ナ	+/-	-	-	-/-	-	-	-	-	-
遼東	上馬石	A区,包,上層	83		上上(A,A)			不	不	ナ	ナ/ナ	ナ/ナ	+/-	-	-	-/-	-	-	-	-	-
遼東	上馬石	A区,包,上層	84		上上(A,A)			不	不	ナ	ナ/ナ	ナ/ナ	+/-	-	-	-/-	-	-	-	-	-
遼東	上馬石	A区,包,上層	85		上上(A,A)			不	不	ナ	ナ/ナ	ナ/ナ	+/-	-	-	-/-	-	-	-	-	-
遼東	上馬石	A区,包,上層	86		上上(A,A)		9.5	9.0	内	内	ナ	ナ/ナ	+/-	-	-	-/-	-	-	-	-	-

地域	遺跡	調査区、遺構、層位等(未報告資料は注記を記載)	報告No.	箱No.	時期	粘着幅 mean	接面長 mean	接面傾. 大	接面傾. 細	調整. 外/内. 大	調整. 外/内. 中	調整. 外/内. 細	ミ、外 /内	板工 具種 類	回ナ. 大	回ナ. 外/内. 細	夕、種 類、部 位	焼成	赤彩	底部 布圧	底部 糸切 り痕
遼東	上馬石	B区、包、-	94		小下		7.0	内	内	ナ	ナ/ナ	ナ/ナ	-/-	-	-	-/-	-	-	-	-	-
遼東	上馬石	B区、包、-	95		小下			不	不	ナ	ナ/ナ	ナ/ナ	-/-	-	-	-/-	-	-	-	-	-
遼東	上馬石	B区、包、-	96		不			不	不	ナ	ナ/ナ	ナ/ナ	+/-	-	-	-/-	-	-	-	-	-
遼東	上馬石	B区、包、-	97		不			不	不	ナ	ナ/ナ	ナ/ナ	+/-	-	-	-/-	-	-	-	-	-
遼東	上馬石	B区、包、-	98		不			不	不	ナ	ナ/ナ	ナ/ナ	+/-	-	-	-/-	-	-	-	-	-
遼東	上馬石	B区、包、-	100		不			不	不	ナ	ナ/ナ	ナ/ナ	-/-	-	+	-/+	-	-	-	-	-
遼東	上馬石	B区、包、-	100		小上-双1			不	不	ナ	ナ/ナ	ナ/ナ	+/-	-	-	-/-	-	-	-	-	-
遼東	上馬石	B区、包、-	101		小上-双1			不	不	ナ	ナ/ナ	ナ/ナ	-/+	-	+	+?/-	-	-	-	-	-
遼東	上馬石	B区、包、-	102		小上-双1			不	不	ナ	ナ/ナ	ナ/ナ	+/-	-	+	-/+?	-	-	-	-	-
遼東	上馬石	B区、包、-	103		不			不	不	板	ナ/板	ナ/ハ	+/-	ハ	-	+?/-	-	-	-	-	-
遼東	上馬石	B区、包、-	104		不			不	不	ナ	ナ/ナ	ナ/ナ	+/-	-	-	-/-	-	-	-	-	-
遼東	上馬石	B区、包、-	105		不			不	不	ナ	ナ/ナ	ナ/ナ	+/-	-	-	-/-	-	-	-	-	-
遼東	上馬石	B区、包、-	106		不			不	不	ナ	ナ/ナ	ナ/ナ	+/-	-	-	-/-	-	-	-	A?B?	-
遼東	上馬石	B区、包、-	107		不			不	内?外?	ナ	ナ/ナ	ナ/ナ	+/-	-	-	-/-	-	-	-	-	-
遼東	上馬石	B区、包、-	109		不			不	不	ナ	ナ/ナ	ナ/ナ	-/-	-	-	-/-	-	-	-	-	-
遼東	上馬石	B区、包、-	109		小上-双1			不	不	ナ	ナ/ナ	ナ/ナ	-/-	-	-	-/-	-	-	-	-	-
遼東	上馬石	B区、包、-	110		小上-双1			不	不	ナ	ナ/ナ	ナ/ナ	-/-	-	-	-/-	-	-	-	-	-
遼東	上馬石	B区、包、-	111		小上-双1			不	不	ナ	ナ/ナ	ナ/ナ	+/-	-	+	-/+	-	-	-	-	-
遼東	上馬石	B区、包、-	112		小上-双1			不	不	ナ	ナ/ナ	ナ/ナ	+/-	-	-	-/-	-	-	-	-	-
遼東	上馬石	B区、包、-	113		小上-双1			不	不	ナ	ナ/ナ	ナ/ナ	+/-	-	+	-/+	-	-	-	-	-
遼東	上馬石	B区、包、-	114		小上-双1			不	不	ナ	ナ/ナ	ナ/ナ	+/-	-	-	-/+	-	-	-	-	-
遼東	上馬石	B区、包、-	115		小上-双1			不	不	ナ	ナ/ナ	ナ/ナ	+/-	-	-	-/-	-	-	-	-	-
遼東	上馬石	B区、包、-	116		不			不	不	ナ	ナ/ナ	ナ/ナ	+/-	-	-	-/-	-	-	-	-	-
遼東	上馬石	B区、包、-	117		不			不	不	ナ	ナ/ナ	ナ/ナ	+/-	-	-	-/-	-	-	-	-	-
遼東	上馬石	B区、包、-	118		不			不	不	ナ	ナ/ナ	ナ/ナ	+/-	-	+	+?/+?	-	-	-	-	-
遼東	上馬石	B区、包、-	119		不			不	不	ナ	ナ/ナ	ナ/ナ	+/-	-	-	-/-	-	-	-	-	-
遼東	上馬石	B II区、包、-	120		小下			不	水?内? 外?	非板	不/非板	ナ?/ナ	-/-	-	-	-/-	-	-	-	-	-
遼東	上馬石	B II区、包、-	121		小上-双1			不	不	ナ	ナ/ナ	ナ/ナ	-/-	-	+	+/-	-	-	-	-	-
遼東	上馬石	B II区、包、-	122		不			不	不	ナ	ナ/ナ	ナ/ナ	-/-	-	+	-/+	-	-	-	-	-
遼東	上馬石	B II区、包、-	123		不			不	不	ナ	ナ/ナ	ナ/ナ	+/-	-	+	-/+	-	-	-	-	-
遼東	上馬石	B II区、包、-	124		不			外	外	ナ	ナ/ナ	ナ/ナ	-/-	-	+	+/-	-	-	-	-	-
遼東	上馬石	B II区、包、-	125		不			不	不	ナ	ナ/ナ	ナ/ナ	+/-	-	+	+/+	-	-	-	-	-
遼東	上馬石	B II区、包、-	127		不			不	不	ナ	ナ/ナ	ナ/ナ	+/-	-	+	-/+	-	-	-	-	-
遼東	上馬石	B II区、包、-	128		双2、3			不	不	ナ	ナ/ナ	ナ/ナ	+/-	-	+	+/+	-	-	-	-	-
遼東	上馬石	B II区、包、-	129		不			不	不	ナ	不/ナ	ナ/ナ	+/-	-	-	-/-	-	-	-	-	-
遼東	上馬石	B II区、包、-	130		不			不	不	ナ	ナ/ナ	ナ/ナ	+/-	-	-	-/-	-	-	-	-	-
遼東	上馬石	B II区、包、-	131		不			不	不	ナ	ナ/不	ナ/不	-/-	-	+	+/-	-	-	-	-	-
遼東	上馬石	B II区、包、-	132		上上-尹2(B II)			外	外	ナ	ナ/ナ	ナ/ナ	+/-	-	+	-/+	-	-	-	-	-
遼東	上馬石	B II区、包、-	133		上上-尹2(B II)			外	外	ナ	ナ/ナ	ナ/ナ	+/-	-	+	-/+	-	-	-	-	-
遼東	上馬石	B II区、包、-	134		上上-尹2(B II)			不	不	ナ	ナ/ナ	ナ/ナ	+/-	-	+	-/+	-	-	-	-	-
遼東	上馬石	B II区、包、-	135		上上-尹2(B II)		12.0	外	外	ナ	ナ/ナ	ナ/ナ	+/-	-	-	-/-	-	-	-	-	-
遼東	上馬石	B II区、包、-	136		上上-尹2(B II)			不	不	ナ	ナ/ナ	ナ/ナ	-/-	-	+	+/+	-	-	-	-	-
遼東	上馬石	B II区、包、-	137		上上-尹2(B II)			不	不	ナ	ナ/ナ	ナ/ナ	+/-	-	+	-/+	-	-	-	-	-
遼東	上馬石	B II区、包、-	138		上上-尹2(B II)			不	外?	ナ	ナ/ナ	ナ/ナ	+/-	-	+	+/-	-	-	-	-	-
遼東	上馬石	B II区、包、-	139		上上-尹2(B II)			不	不	ナ	ナ/ナ	ナ/ナ	+/-	-	-	-/-	-	-	-	-	-
遼東	上馬石	B II区、包、-	140		上上-尹2(B II)			不	外?	ナ	ナ/ナ	ナ/ナ	+/-	-	-	-/-	-	-	-	-	-
遼東	上馬石	B II区、包、-	143		上上-尹2(B II)			不	外?	ナ	ナ/ナ	ナ/ナ	+/-	-	+	-/+	-	-	-	-	-
遼東	上馬石	B II区、包、-	144		上上-尹2(B II)			不	不	ナ	ナ/ナ	ナ/ナ	+/-	-	-	-/-	-	-	-	-	-
遼東	上馬石	B II区、包、-	145		上上-尹2(B II)			不	不	ナ	ナ/ナ	ナ/ナ	+/-	-	+	-/+	-	-	-	-	-
遼東	上馬石	B II区、包、-	146		上上-尹2(B II)			不	外?	ナ	ナ/ナ	ナ/ナ	+/-	-	-	-/-	-	-	-	-	-
遼東	上馬石	B II区、包、-	147		上上-尹2(B II)			不	不	ナ	ナ/ナ	ナ/ナ	+/-	-	+	-/+	-	-	-	-	-
遼東	上馬石	B II区、包、-	148		上上-尹2(B II)			不	不	板	ナ/板	ナ/板ナ	+/-	板ナ	-	-/-	-	-	-	-	-
遼東	上馬石	B II区、包、-	149		上上-尹2(B II)			不	不	ナ	ナ/ナ	ナ/ナ	+/-	-	+	+/-	-	-	-	-	-
遼東	上馬石	B II区、包、-	150		上上-尹2(B II)			不	不	ナ	ナ/ナ	ナ/ナ	+/-	-	+	+/-	-	-	-	-	-
遼東	上馬石	B II区、包、-	151		上上-尹2(B II)			不	水?	ナ	ナ/ナ	ナ/ナ	-/-	-	+	+/+	-	-	-	-	-
遼東	上馬石	B II区、包、-	152		上上-尹2(B II)			不	不	ナ	ナ/ナ	ナ/ナ	+/-	-	+	+/-	-	-	-	-	-
遼東	上馬石	B II区、包、-	153		上上-尹2(B II)			不	不	ナ	ナ/ナ	ナ/ナ	-/-	-	+	+/+	-	-	-	-	-
遼東	上馬石	B II区、包、-	154		上上-尹2(B II)			不	不	ナ	ナ/ナ	ナ/ナ	-/-	-	+	+?/+?	-	-	-	-	-
遼東	上馬石	B II区、包、-	155		上上-尹2(B II)			不	不	ナ	ナ/ナ	ナ/ナ	-/-	-	+	+?/+?	-	-	-	-	-
遼東	上馬石	B II区、包、-	156		上上-尹2(B II)			不	不	ナ	ナ/ナ	ナ/ナ	-/-	-	+	+/+	-	-	-	-	-
遼東	上馬石	B II区、包、-	157		上上-尹2(B II)			不	不	ナ	ナ/ナ	ナ/ナ	-/-	-	+	+/+	-	-	-	-	-
遼東	上馬石	B II区、包、-	158		上上-尹2(B II)			不	不	ナ	ナ/ナ	ナ/ナ	-/-	-	+	+/+	-	-	-	-	-
遼東	上馬石	B II区、包、-	159		上上-尹2(B II)			不	不	ナ	ナ/ナ	ナ/ナ	-/-	-	+	+/+	-	-	-	-	-
遼東	上馬石	B II区、包、-	160		上上-尹2(B II)			不	不	ナ	ナ/ナ	ナ/ナ	+/-	-	+	+/+	-	-	-	-	-
遼東	上馬石	B II区、包、-	161		上上-尹2(B II)			不	不	ナ	ナ/ナ	ナ/ナ	+/-	-	+	+/+	-	-	-	-	-
遼東	上馬石	B II区、包、-	162		上上-尹2(B II)			不	不	ナ	ナ/ナ	ナ/ナ	-/-	-	+	+/+	-	-	-	-	-
遼東	上馬石	B II区、包、-	164		上上-尹2(B II)			不	不	ナ	ナ/ナ	ナ/ナ	-/-	-	+	+/+	-	-	-	-	-
遼東	上馬石	B II区、包、-	164		上上-尹2(B II)			不	不	ナ	ナ/ナ	ナ/ハ?、ナ	+/-	-	-	-/-	-	-	-	-	-
遼東	上馬石	B II区、包、-	165		上上-尹2(B II)			不	不	ナ	ナ/ナ	ナ/ナ	+/-	-	-	-/-	-	-	-	-	-
遼東	上馬石	B II区、包、-	166		上上-尹2(B II)			不	不	ナ	ナ/ナ	ナ/ナ	-/-	-	-	-/-	-	-	-	-	-
遼東	上馬石	B II区、包、-	167		上上-尹2(B II)			不	不	ナ	ナ/ナ	ナ/ナ	-/-	-	-	-/-	-	-	-	-	-
遼東	上馬石	B II区、包、-	168		上上-尹2(B II)		26.5	外	外	ナ	ナ/ナ	ナ/ナ	+/-	-	-	-/-	-	-	-	-	-
遼東	上馬石	B II区、包、-	169		上上-尹2(B II)		15.0	外	外	ナ	ナ/ナ	ナ/ナ	+/-	-	-	-/-	-	-	-	-	-
遼東	上馬石	B II区、包、-	170		上上-尹2(B II)			不	不	ナ	ナ/ナ	ナ/ナ	-/-	-	+	+/-	-	-	-	-	-
遼東	上馬石	B II区、包、-	171		上上-尹2(B II)			不	不	ナ	ナ/ナ	ナ/ハ?、ナ	+/-	-	-	-/-	-	-	-	-	-
遼東	上馬石	B II区、包、-	172		上上-尹2(B II)			不	不	板	板/ナ	ハ、ナ/ナ	+/-	ハ	-	-/-	-	-	-	-	-
遼東	上馬石	B II区、包、-	173		上上-尹2(B II)			不	不	ナ	ナ/ナ	ナ/ナ	-/+	-	-	-/-	-	-	-	-	-
遼東	上馬石	B II区、包、-	174		上上-尹2(B II)			不	不	ナ	ナ/ナ	ナ/ナ	-/-	-	-	-/-	-	-	-	-	-
遼東	上馬石	B II区、包、-	175		上上-尹2(B II)			不	不	ナ	不/ナ	不/ナ	-/-	-	-	-/-	-	-	-	-	-
遼東	上馬石	B II区、包、-	176		上上-尹2(B II)			不	不	ナ	ナ/ナ	ナ/ナ	+/-	-	-	-/-	-	-	-	-	-
遼東	上馬石	B II区、包、-	177		上上-尹2(B II)			不	不	ナ	不/ナ	不/ナ	+/-	-	-	-/-	-	-	-	-	-
遼東	上馬石	B II区、包、-	178		上上-尹2(B II)			外	外	ナ	ナ/ナ	ナ/ナ	-/-	-	-	-/-	-	-	-	-	-
遼東	上馬石	B II区、包、-	179		上上-尹2(B II)			不	不	ナ	ナ/不	ナ/不	+/-	-	-	-/-	-	-	-	-	-
遼東	上馬石	B II区、包、-	180		上上-尹2(B II)			不	不	ナ	ナ/ナ	ナ/ナ	+/-	-	+	+/-	-	-	-	-	-
遼東	上馬石	B II区、包、-	181		上上-尹2(B II)		8.0	外	外	ナ	ナ/ナ	ナ/ナ	+/-	-							

地域	遺跡	調査区、遺構、層位等(未報告資料は注記を記載)	報告No.	箱No.	時期	粘着幅 mean	接面長 mean	接面傾、大	接面傾、細	調整、外/内、大	調整、外/内、中	調整、外/内、細	ミ、外/内	板工具種類	回ナ、大	回ナ、外/内、細	夕、種類、部位	焼成	赤彩	底部布圧	底部余切り痕
遼東	上馬石	BII区、包、-	186		上上-尹2(BII)			不	不	ナ	ナ/ナ	ナ/ナ	-/-	-	-	-	-	-	-	-	-
遼東	上馬石	BII区、包、-	187		上上-尹2(BII)			外	外	ナ	ナ/ナ	ナ/ナ	+/-	-	+	-/+過	-	-	-	-	-
遼東	上馬石	BII区、包、-	188		上上-尹2(BII)			不	不	ナ	ナ/ナ	ナ/ナ	+/-	-	-	-/-	-	-	-	-	-
遼東	上馬石	BII区、包、-	191		上上-尹2(BII)			不	不	ナ	ナ/ナ	ナ/ナ	+/-	-	+	-/+	-	-	-	-	-
遼東	上馬石	BII区、包、-	192		上上-尹2(BII)			不	不	ナ	ナ/ナ	ナ/ナ	-/-	-	-	-/-	-	-	-	-	-
遼東	上馬石	BII区、包、-	194		上上-尹2(BII)			不	不	ナ	ナ/ナ	ナ/ナ	-/-	-	-	-/-	-	-	-	-	-
遼東	上馬石	BII区、包、-	195		上上-尹2(BII)			不	不	ナ	ナ/ナ	ナ/ナ	+/-	-	-	-/-	-	-	-	-	-
遼東	上馬石	BII区、包、-	196		上上-尹2(BII)	120		不	不	板	板/板	ハ、ナ/ハ、ナ	+/-	ハ	-	-/-	-	-	-	-	-
遼東	上馬石	BII区、包、-	197		上上-尹2(BII)			不	不	ナ	ナ/ナ	ナ/ナ	+/-	-	-	-/-	-	-	-	-	-
遼東	上馬石	BII区、包、-	198		上上-尹2(BII)			不	不	ナ	ナ/ナ	ナ/ナ	+/-	-	-	-/-	-	-	-	-	-
遼東	上馬石	BII区、包、-	199		上上-尹2(BII)	95		不	不	水?外?	ナ	ナ/ナ	+/-	-	-	-/-	-	-	-	-	-
遼東	上馬石	BII区、包、-	200		上上-尹2(BII)			不	不	ナ	ナ/ナ	ナ/ハ?、ナ	+/-	-	-	-/-	-	-	-	-	-
遼東	上馬石	BII区、包、-	201		上上-尹2(BII)			不	不	ナ	ナ/ナ	ナ/ナ	-/-	-	+	+/-	-	-	-	-	-
遼東	上馬石	BII区、包、-	202		上上-尹2(BII)			不	水?	ナ	ナ/ナ	ナ/ナ	-/-	-	-	-/-	-	-	-	-	-
遼東	上馬石	BII区、包、-	203		上上-尹2(BII)			不	不	ナ	ナ/ナ	ナ/ナ	+/-	-	-	-/-	-	-	-	-	-
遼東	上馬石	BII区、包、-	204		上上-尹2(BII)	135	8.0	水	水	ナ	ナ/ナ	ナ/ナ	+/-	-	-	-/-	-	-	-	-	-
遼東	上馬石	BII区、包、-	205		上上-尹2(BII)	8.0		不	不	ナ	ナ/ナ	ナ/ナ	+/-	-	-	-/-	-	-	-	-	-
遼東	上馬石	BII区、包、-	206		上上-尹2(BII)			不	不	ナ	ナ/ナ	ナ/ナ	-/-	-	-	-/-	-	-	-	-	-
遼東	上馬石	BII区、包、-	208		上上-尹2(BII)			不	不	ナ	ナ/ナ	ナ/ナ	-/-	-	-	-/-	-	-	-	-	-
遼東	上馬石	BII区、包、-	209		上上-尹2(BII)			不	不	ナ	ナ/ナ	ナ/ナ	+/-	-	-	-/-	-	-	-	-	-
遼東	上馬石	BII区、包、-	210		上上-尹2(BII)			不	不	板	ナ/板	ナ/板ナ、ナ	-/-	板ナ	-	-/-	-	-	-	-	-
遼東	上馬石	BII区、包、-	211		上上-尹2(BII)		22.0	外	外	ナ	ナ/ナ	ナ/ナ	-/-	-	-	-/-	-	-	-	-	-
遼東	上馬石	BII区、包、-	212		上上-尹2(BII)			外	外	ナ	ナ/ナ	ナ/ナ	-/-	-	+	+/-	-	-	-	-	-
遼東	上馬石	BII区、包、-	213		上上-尹2(BII)			不	不	ナ	ナ/ナ	ナ/ナ	-/-	-	-	-/-	-	-	-	-	-
遼東	上馬石	BII区、包、-	214		上上-尹2(BII)			不	不	板	ナ/板	ナ/板ナ	+/-	板ナ	-	-/-	-	-	-	-	-
遼東	上馬石	BII区、包、-	215		上上-尹2(BII)			不	不	ナ	ナ/ナ	ナ/ナ	+/-	-	-	-/-	-	-	-	-	-
遼東	上馬石	BII区、包、-	216		上上-尹2(BII)			不	不	ナ	ナ/ナ	ナ/ナ	+/-	-	-	-/-	-	-	-	-	-
遼東	上馬石	BII区、包、-	217		上上-尹2(BII)			不	不	ナ	ナ/ナ	ナ/ナ	+/-	-	-	-/-	-	-	-	-	-
遼東	上馬石	BII区、包、-	218		上上-尹2(BII)			不	不	ナ	ナ/ナ	ナ/ナ	-/-	-	-	-/-	-	-	-	-	-
遼東	上馬石	CI区、包、-	219		不			不	不	ナ	ナ/ナ	ナ/ナ	+/-	-	-	-/-	-	-	-	-	-
遼東	上馬石	CI区、包、-	220		小上-双1			不	不	ナ	不/ナ	ナ/ナ	+/-	-	-	-/-	-	-	-	-	-
遼東	上馬石	CI区、包、-	221		小上-双1			不	不	ナ	ナ/ナ	ナ/ナ	+/-	-	-	-/-	-	-	-	-	-
遼東	上馬石	CI区、包、-	222		不			不	外?	ナ	ナ/ナ	ナ/ナ	+/-	-	-	-/-	-	-	-	-	-
遼東	上馬石	CI区、包、-	223		不			不	不	ナ	ナ/ナ	ナ/ナ	+/-	-	-	-/-	ナ、平、底	-	-	-	-
遼東	上馬石	CI区、包、-	224		小上-双1			不	不	板	ナ/板	ナ/板ナ、ナ	+/-	板ナ	-	-/-	-	-	-	-	-
遼東	上馬石	CI区、包、-	225		小上-双1			不	不	ナ	ナ/ナ	ナ/板ナ?、ナ	+/-	-	-	-/-	-	-	-	-	-
遼東	上馬石	CI区、包、-	226		不			不	不	ナ	ナ/ナ	ナ/ナ	+/-	-	-	-/-	-	-	-	-	-
遼東	上馬石	CI区、包、-	228		小上-双1			不	不	板	ナ/板	ナ/板ナ	+/-	板ナ	-	-/-	-	-	-	-	-
遼東	上馬石	CI区、包、-	229		小上-双1			不	不	ナ	ナ/ナ	ナ/ナ	+/-	-	+	+/-	-	-	-	-	-
遼東	上馬石	CI区、包、-	230		小上-双1			不	不	ナ	ナ/ナ	ナ/ナ	+/-	-	+	+/-	-	-	-	-	-
遼東	上馬石	CI区、包、-	231		小上-双1			不	不	ナ	ナ/ナ	ナ/ナ	+/-	-	+	+/-	-	-	-	-	-
遼東	上馬石	CI区、包、-	232		小上-双1			不	不	ナ	ナ/ナ	ナ/ナ	+/-	-	+	+/-	-	-	-	-	-
遼東	上馬石	CI区、包、-	233		小上-双1			不	外?	ナ	ナ/ナ	ナ/ナ	+/-	-	+	+/-	-	-	-	-	-
遼東	上馬石	CI区、包、-	234		小上-双1			不	不	ナ	ナ/ナ	ナ/ナ	+/-	-	+	+/-	-	-	-	-	-
遼東	上馬石	CI区、包、-	235		小上-双1			不	不	ナ	ナ/ナ	ナ/ナ	+/-	-	-	-/-	ナ、平、底	-	-	-	-
遼東	上馬石	CI区、包、-	236		小上-双1			不	不	非板	非板/ナ	ケ、ナ/ナ	+/-	-	+	+/-	-	-	-	-	-
遼東	上馬石	CI区、包、-	237		小上-双1			不	不	ナ	ナ/ナ	ナ/ナ	+/-	-	+	+/-	-	-	-	-	-
遼東	上馬石	CI区、包、-	238		小上-双1			不	不	ナ	ナ/ナ	ナ/ナ	+/-	-	-	-/-	ナ、平、底	-	-	-	-
遼東	上馬石	CI区、包、-	239		小上-双1			不	不	ナ	ナ/ナ	ナ/ナ	+/-	-	-	-/-	-	-	-	-	-
遼東	上馬石	CI区、包、-	240		小上-双1			不	不	ナ	ナ/ナ	ナ/ナ	+/-	-	-	-/-	ナ、平、底	-	-	-	-
遼東	上馬石	CI区、包、-	241		小上-双1			不	不	ナ	ナ/ナ	ナ/ナ	+/-	-	-	-/-	ナ、平、底	-	-	-	-
遼東	上馬石	CI区、包、-	242		小上-双1			不	不	ナ	ナ/ナ	ナ/ナ	+/-	-	-	-/-	-	-	-	-	-
遼東	上馬石	CI区、包、-	243		小上-双1			不	不	ナ	ナ/ナ	ナ/ナ	+/-	-	-	-/-	-	-	-	-	-
遼東	上馬石	CI区、包、-	244		小上-双1			不	不	ナ	不/ナ	ナ/ナ	+/-	-	-	-/-	-	-	-	-	-
遼東	上馬石	CI区、包、-	245		小上-双1			不	不	ナ	ナ/ナ	ナ/ナ	+/-	-	-	-/-	-	-	-	-	-
遼東	上馬石	CI区、包、-	246		小上-双1			不	不	ナ	ナ/ナ	ナ/ナ	+/-	-	+	+/-	-	-	-	-	-
遼東	上馬石	CI区、包、-	247		小上-双1			不	不	ナ	ナ/ナ	ナ/ナ	+/-	-	+	+/?	-	-	-	-	-
遼東	上馬石	CI区、包、-	248		小上-双1			不	不	ナ	ナ/ナ	ナ/ナ	+/-	-	+	+/?	-	-	-	-	-
遼東	上馬石	CI区、包、-	249		不			不	不	ナ	ナ/ナ	ナ/ナ	+/-	-	+	+/?	-	-	-	-	-
遼東	上馬石	CI区、包、-	250		不			不	不	ナ	ナ/ナ	ナ/ナ	+/-	-	-	-/-	-	-	-	-	-
遼東	上馬石	CI区、包、-	251		不			不	不	ナ	ナ/ナ	ナ/ナ	-/-	-	+	+/?	-	-	-	-	-
遼東	上馬石	CI区、包、-	252		不			不	不	ナ	ナ/ナ	ナ/ナ	+/-	-	-	-/-	-	-	-	-	-
遼東	上馬石	CI区、包、-	253		小上-双1			外	外	ナ	ナ/ナ	ナ/ナ	+/-	-	+	+/?	-	-	-	-	-
遼東	上馬石	CI区、包、-	254		小上-双1			不	不	ナ	ナ/ナ	ナ/ナ	+/-	-	+	+/?	-	-	-	-	-
遼東	上馬石	CI区、包、-	255		小上-双1			不	不	ナ	ナ/ナ	ナ/ナ	+/-	-	-	-/-	-	-	-	-	-
遼東	上馬石	CI区、包、-	256		小上-双1			不	不	ナ	ナ/ナ	ナ/ナ	+/-	-	-	-/-	-	-	-	-	-
遼東	上馬石	CI区、包、-	257		小上-双1			不	不	ナ	ナ/ナ	ナ/ナ	+/-	-	-	-/-	-	-	-	-	-
遼東	上馬石	CI区、包、-	258		小上-双1			不	不	ナ	ナ/ナ	ハ?、ナ/ナ	+/-	-	+	+/?	-	-	-	-	-
遼東	上馬石	CI区、包、-	259		小上-双1		30.0	外	外	板	ナ/板	ナ/板ナ	+/-	板ナ	-	-/-	-	-	-	-	-
遼東	上馬石	CI区、包、-	260		小上-双1	265		不	不	非板	ナ/非板	ナ/ケ、ナ	-/-	-	+	+/?	-	-	-	-	-
遼東	上馬石	CI区、包、-	261		小上-双1			不	不	非板	ハ?、ナ/ケ、ナ	ナ/ナ	+/-	-	+	+/?	-	-	-	-	-
遼東	上馬石	CI区、包、-	262		小上-双1			不	不	ナ	ナ/ナ	ナ/ナ	+/-	-	+	+/?	-	-	-	-	-
遼東	上馬石	CI区、包、-	263		小上-双1			不	不	ナ	ナ/ナ	ナ/ナ	+/-	-	-	-/-	-	-	-	-	-
遼東	上馬石	CI区、包、-	264		小上-双1			不	不	ナ	ナ/ナ	ナ/ナ	+/-	-	-	-/-	-	-	-	-	-
遼東	上馬石	CI区、包、-	265		小上-双1			不	不	ナ	ナ/ナ	ナ/ナ	+/-	-	-	-/-	ナ、平、底	-	-	-	-
遼東	上馬石	CI区、包、-	266		小上-双1			不	不	板	ナ/板	ナ/板ナ、ナ	-/-	板ナ	+	+/?	-	-	-	-	-
遼東	上馬石	CI区、包、-	267		小上-双1			不	不	ナ	ナ/ナ	ナ/ナ	-/?	-	-	-/-	-	-	-	-	-
遼東	上馬石	CI区、包、-	268		小上-双1			不	外?	ナ	ナ/ナ	ナ/ナ	+/?	-	-	-/-	-	-	-	-	-
遼東	上馬石	CI区、包、-	269		小上-双1			不	外?	ナ	ナ/ナ	ナ/ナ	-/-	-	-	-/-	-	-	-	-	-
遼東	上馬石	CI区、包、-	270		小上-双1			不	不	ナ	ナ/ナ	ナ/ナ	-/-	-	+	+/?	-	-	-	-	-
遼東	上馬石	CI区、包、-	271		小上-双1			不	不	ナ	ナ/ナ	ナ/ナ	+/?	-	+	+/?	-	-	-	-	-
遼東	上馬石	CI区、包、-	272		小上-双1			不	外?	ナ	ナ/ナ	ナ/ナ	+/?	-	+	+/?	-	-	-	-	-
遼東	上馬石	CI区、包、-	273		小上-双1			不	不	ナ	ナ/ナ	ナ/ナ	+/?	-	+	+/?	-	-	-	-	-
遼東	上馬石	CI区、包、-	274		小上-双1			不	不	ナ	ナ/ナ	ナ/ナ	+/?	-	+	+/?	-	-	-	-	-
遼東	上馬石	CI区、包																			

Table with columns: 地域, 遺跡, 調査区, 遺構, 層位等(未報告資料は注記を記載), 報告No., 箱No., 時期, 粘帯幅 mean, 接面長 mean, 接面傾, 接面傾, 調整, 調整, 調整, ミ、外, 板工, 回ナ, 回ナ, タ, 種, 焼成, 赤彩, 底部, 底部. Rows list various archaeological sites (e.g., 遼東王家村, 遼東王家村) with their respective measurements and findings.

